

令和5年(2023年)
全国災害時気象概況

令和6年7月

気象庁

—— 目 次 ——

1 令和5年(2023年)の気象災害	1
1-1 気象の特徴	1
1-2 主な気象災害	2
資料1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料	16
資料1-2-2 令和5年(2023年)に発生した主な竜巻等の突風	30
2 令和5年(2023年) 台風の概要	31
2-1 令和5年(2023年)に発生した台風	31
資料2-1-1 台風発生数一覧表	32
資料2-1-2 日本への台風接近数一覧表	33
資料2-1-3 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	34
資料2-1-4 日本への台風上陸数一覧表	35
資料2-1-5 令和5年(2023年)に発生した台風の一覧表	36
2-2 令和5年(2023年)に日本に影響した主な台風	37
資料2-2-1 令和5年(2023年)に日本に影響した台風の概要表	40
資料2-2-2 令和5年(2023年)に発生した台風の経路図	41

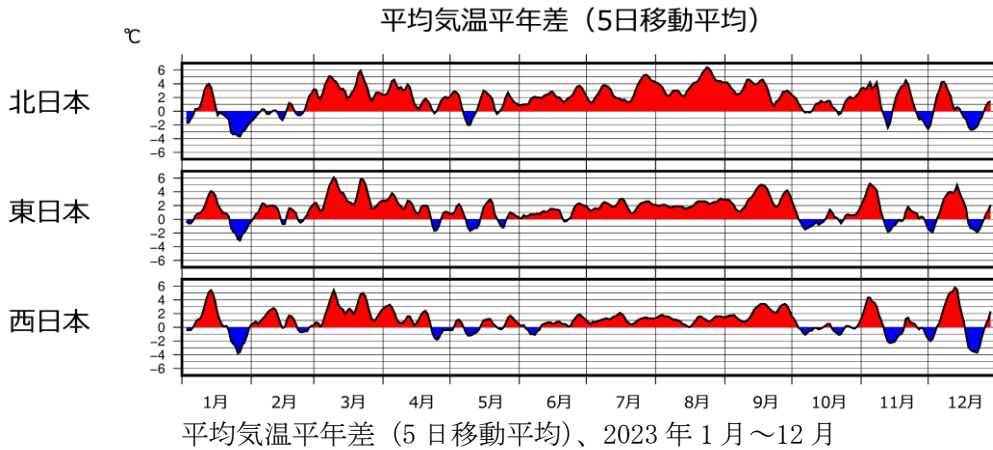
本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁大気海洋部において取りまとめたものである。

1 令和5年(2023年)の気象災害

1-1 気象の特徴

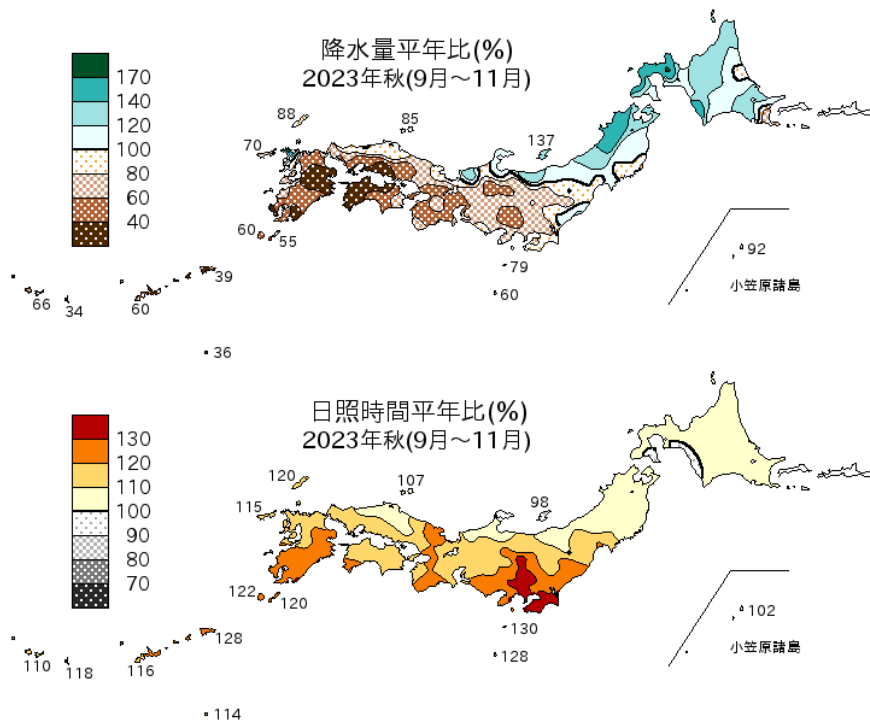
○ 年平均気温は全国的に高く、特に北・東・西日本で記録的な高温となった。

春から秋にかけて気温の高い状態が続き、低温は一時的だったため、年平均気温は全国的に高く、特に北・東・西日本でかなり高かった。1946年の統計開始以降、北・東日本では年平均気温が1位の高温、西日本では1位タイの高温となった。北・東日本は春・夏・秋の3季節連続で季節平均気温が1位の高温となり、西日本では夏の平均気温が1位タイの高温となった。



○ 秋は西日本太平洋側で記録的な少雨多照となった。

東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、秋雨前線や低気圧、台風の影響を受けにくく、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、秋の降水量はかなり少なく、秋の日照時間はかなり多かった。特に西日本太平洋側では、秋の降水量平年比が48%、秋の日照時間平年比が120%となり、1946年の統計開始以降、秋として1位の少雨及び多照となった。



降水量と日照時間の平年比、2023年秋(2023年9月～11月)

1-2 主な気象災害

ここでは、令和 5 年(2023 年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生期日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述する。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種別、< >内に気圧配置等の気象状況を記す。主な気象災害の一覧を表 1.1 に示す。

なお、被害の具体的な数値は、以下の情報を参考に記載した。

- ・内閣府、総務省消防庁、国土交通省による被害状況のとりまとめ資料
- ・国や都道府県の防災機関等から被害状況を入手し、気象庁でとりまとめた資料
- ・気象庁が行った突風の被害状況等調査報告

表 1.1 主な気象災害の一覧表

災害番号	災害をもたらした現象の期日	地域	災害の種別	気象状況
(1)	1 月 23 日～1 月 30 日	全国	大雪、暴風雪、高波、その他	冬型の気圧配置、低気圧
(2)	5 月 28 日～6 月 3 日	全国	大雨、暴風、高波	梅雨前線、台風第 2 号
(3)	6 月 28 日～7 月 16 日	全国	大雨、突風	梅雨前線
(4)	7 月 30 日～8 月 11 日	沖縄・奄美 西日本	大雨、暴風、高波、高潮	台風第 6 号
(5)	7 月 31 日～8 月 1 日	東日本 東北南部	大雨、その他	大気不安定
(6)	8 月 11 日～8 月 17 日	西日本 東日本 北日本	大雨、暴風、高波、高潮、突風	台風第 7 号
(7)	8 月 17 日～8 月 18 日	西日本、北陸地方、東海地方	大雨、突風	低気圧
(8)	9 月 3 日～9 月 9 日	西日本 東日本 北日本	大雨、暴風	台風第 12 号、前線、台風第 13 号
(9)	12 月 17 日～12 月 23 日	西日本 東日本 北日本	大雪、暴風雪、高波	冬型の気圧配置、低気圧

(1)1 月 23 日～1 月 30 日:全国(大雪、暴風雪、高波、その他) <冬型の気圧配置、低気圧>

1 月 23 日は低気圧が日本海と日本の南を東へ進み、24 日は日本の東を北上した。その後 25 日にかけて日本の上空に強い寒気が流れ込んで、冬型の気圧配置が強まった。低気圧の影響で四国地方を中心に大雪となり、その後次第に西日本から北陸地方を中心に大雪となって、中国地方では降雪が強まった所があった。また、京都市で 24 時間降雪量が 15 センチとなるなど、普段雪の少ない関東甲信地方から九州にかけての太平洋側でも積雪となった所があった。この他、全国的に風が強まり、北日本では風速 25 メートル以上の非常に強い風を観測したほか、25 日と 26 日の最低気温は西日本から北日本の広い範囲でかなり低く、最低気温の観測史上 1 位を記録したところがあった。その後も 30 日にかけて、冬型の気圧配置や日本海の低気圧の影響で山陰から北陸地方を中心に大雪となった。

この大雪により、近畿地方や東海地方を中心に鉄道の駅間停車や高速道路・一般道での車両の滞留が発生するなど、鉄道の運休、道路の通行止め、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。また、死者8名等の人的被害が発生したほか、停電、断水等のライフラインへの被害が発生した。(令和5年2月2日の内閣府とりまとめ等による)

[日降雪量 50 センチ以上を観測した主な地点及び日降雪量 5 センチ以上を観測した関東甲信地方から九州にかけての太平洋側の主な地点(後者には*を付している)(単位:センチ)]

1月24日

鳥取県大山町大山(ダイセン)	72	岡山県真庭市上長田(カナガタ)	70
長野県小谷村小谷(オクリ)	66	兵庫県香美町兎野高原(ウワノコウゲン)	51
京都府中京区京都(キョウト)*	15	滋賀県大津市大津(オオツ)*	11
茨城県水戸市水戸(ミト)*	7	和歌山県和歌山市和歌山(ワカヤマ)*	5

1月25日

山口県山口市山口(ヤマグチ)*	11	三重県津市津(ツ)*	8
-----------------	----	------------	---

1月26日

山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	78	青森県青森市酸ヶ湯(スカユ)	59
新潟県魚沼市守門(スモン)	52		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

1月24日

鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	23.1	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	22.6
愛媛県宇和島市宇和島(ウワシマ)	22.4	大分県豊後高田市豊後高田(ブンゴタカタ)	22.1
沖縄県与那国町所野(トコロ)	21.8	北海道浦河町浦河(ウラカワ)	21.3
大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	20.9	愛知県常滑市セントレア	20.8
新潟県佐渡市弾崎(ハジキサキ)	20.6	沖縄県那覇市安次嶺(アシミネ)	20.3

1月25日

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	27.4	山形県酒田市飛島(トビシマ)	25.1
秋田県八峰町八森(ハチモリ)	23.6	北海道奥尻町奥尻(オクシリ)	22.4
北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	21.3	新潟県佐渡市相川(アイカワ)	20.4
北海道釧路市釧路(クシロ)	20.2		

1月26日

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	27.6	山形県酒田市飛島(トビシマ)	22.3
秋田県八峰町八森(ハチモリ)	22.2	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	20.3
北海道奥尻町奥尻(オクシリ)	20.1		

1月27日

鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.2	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	20.9
沖縄県与那国町所野(トコロ)	20.5		

1月28日

山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.9	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	20.2
----------------	------	--------------------	------

1月29日

山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.6		
----------------	------	--	--

1月30日

新潟県佐渡市相川(アイカワ)	24.4		
----------------	------	--	--

(2)5月28日～6月3日:全国(大雨、暴風、高波)＜梅雨前線、台風第2号＞

5月28日から6月3日にかけて、台風第2号が日本に接近し、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で前線が活発となり、各地で大雨となった。6月1日から3日は、四国地方、近畿地方及び東海地方で線状降水帯が発生し、西日本から東日本の太平洋側を中心に、多い所で平年の月降水量の2倍を超える大雨となった。また、台風第2号が5月31日から6月2日にかけて沖縄地方にかなり接近した影響で、沖縄・奄美では非常に強い風が吹き、海上は猛烈なしけとなった。

これら大雨等の影響で、土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生し、人的被害や住家被害が発生した。(被害の状況は令和5年6月8日の内閣府とりまとめ等による。)

5月28日から31日

5月28日から31日は、日本海から東北地方にのびていた梅雨前線が、日本の南まで南下した。この影響で、西日本から北日本では雨が降り、九州北部地方、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方、甲信地方及び伊豆諸島の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、31日は、大型で強い台風第2号が沖縄地方に接近し、沖縄地方では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した所があった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月29日

島根県松江市松江(マツエ)	145.5	鳥取県境港市境(サカイ)	137.0
福井県勝山市勝山(カツヤマ)	136.5	長野県南木曾町南木曾(ナギツ)	133.0
岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	119.0	石川県白山市白山河内(ハクサンカワチ)	117.5
富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	107.0	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	100.0

5月30日

大分県竹田市竹田(タケタ)	117.0	熊本県南小国町南小国(ミナミオクニ)	111.5
---------------	-------	--------------------	-------

5月31日

東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	127.5
-------------------	-------

[最大風速20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

5月31日

沖縄県石垣市盛山(モリヤマ)	22.3	沖縄県宮古島市下地島(シモジシマ)	20.8
----------------	------	-------------------	------

6月1日から3日

6月1日から2日は、沖縄地方に接近した台風第2号の影響により、沖縄・奄美の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となったほか、風速20メートル以上の非常に強い風を観測した所があった。また、1日から3日は、本州付近の梅雨前線に向かって台風第2号周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となり、西日本から東日本では太平洋側を中心に大雨となった。高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県及び静岡県では線状降水帯が発生し、1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。1日から3日にかけての総降水量は、東海地方の多い所で500ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方及び関東地方の多い所で400ミリを超える大雨となり、平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点があった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月1日

鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	172.5	沖縄県国頭村国頭(ケニガミ)	146.5
-------------------	-------	----------------	-------

6月2日

静岡県浜松市天竜区春野(ハルノ)	500.5	三重県鳥羽市鳥羽(トバ)	481.0
愛知県田原市伊良湖(イラコ)	444.0	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	417.5

和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマタンザン)	407.5	高知県土佐清水市三崎(ミサキ)	403.5
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	377.0	徳島県阿南市蒲生田(カモダ)	334.5
山梨県南部町南部(ナンブ)	282.0	長野県飯田市南信濃(ミナシナノ)	269.5
大阪府河内長野市河内長野(カワチナガノ)	234.0	岐阜県中津川市中津川(ナカツガワ)	213.5
埼玉県越谷市越谷(コシガヤ)	203.0	宮崎県宮崎市田野(タノ)	200.5
東京都練馬区練馬(ネリマ)	197.0	茨城県小美玉市美野里(ミノリ)	192.0
愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	181.0	千葉県我孫子市我孫子(アビコ)	155.5
熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	153.5	兵庫県西宮市西宮(ニシノミヤ)	131.0
大分県佐伯市蒲江(カマエ)	129.0	栃木県那須烏山市那須烏山(ナスカラスヤマ)	125.0
富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	119.5	京都府京田辺市京田辺(キョウタナヘ)	119.5
福島県いわき市小名浜(オナハマ)	117.0	滋賀県甲賀市土山(ツチヤマ)	116.0
石川県かほく市かほく	112.5	鹿児島県肝付町内之浦(ウチノウラ)	108.5
6月3日			
茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	139.0	千葉県船橋市船橋(フナバシ)	130.5
[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]			
6月1日			
沖縄県那覇市安次嶺(アシネ)	22.3	沖縄県与那国町所野(トコロ)	22.2
6月2日			
鹿児島県与論町与論島(ヨロシマ)	20.3	沖縄県うるま市宮城島(ミヤギシマ)	20.3

(3)6月28日～7月16日:全国(大雨、突風)＜梅雨前線＞

6月28日から7月16日にかけて、梅雨前線が本州付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、断続的に前線の活動が活発となった。6月30日から7月10日は、九州北部地方を中心に、沖縄地方を除いた広い範囲で大雨となり、特に線状降水帯が複数発生した九州北部地方では、7月10日までの4日間で平年の月降水量を超えた所があり記録的な大雨となった。7月11日から13日は、北陸地方で線状降水帯が発生し、北陸地方を中心に大雨となった所があった。7月14日から16日は、東北北部を中心に大雨となり、秋田県を中心に、多い所で平年の月降水量を超える大雨となった。

これら大雨の影響で、土砂災害、河川の増水や氾濫、浸水害等が発生し、人的被害や住家被害が発生した。また、停電、断水、電話の不通等のライフラインへの被害が発生したほか、道路の通行止め、鉄道の運休、航空機の欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は7月18日及び7月25日の内閣府とりまとめ等による。)

また、6月28日から7月16日にかけて、大気の状態が非常に不安定となった影響で、13道県で20件の突風が発生した。

6月28日から29日

上空に寒気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となった。九州北部地方から北海道地方では猛烈な雨や非常に激しい雨が降るなど、局地的に大雨となり、九州北部地方、北陸地方及び東北地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月28日

熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ)	163.5	山形県米沢市米沢(ヨネザワ)	148.5
福島県金山町金山(カネヤマ)	122.5	新潟県阿賀町室谷(ムロヤ)	111.5
富山県立山町立山芦峯(タテヤマアシクラ)	100.5		

6月29日

福井県敦賀市敦賀(ツルガ)	124.5		
---------------	-------	--	--

6月30日から7月6日

6月30日から7月2日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過した後、梅雨前線が本州付近を南下した。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、前線の活動が活発となり、奄美地方から東日本にかけての広い範囲で大雨となった。山口県と鹿児島県(奄美地方)では線状降水帯が発生し、猛烈な雨を観測した。九州北部地方や九州南部・奄美地方では、24時間降水量が300ミリを超えた所や観測史上1位の値を更新した地点があった。

3日から4日は、梅雨前線が九州付近に停滞し、引き続き前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、前線の活動が活発な状態が続いた。熊本県では線状降水帯が発生し、24時間降水量が300ミリを超えた。また、東日本を中心に上空の寒気の影響により、大気の状態が非常に不安定となり、静岡県菊川市、掛川市及び御前崎市では日本版改良藤田スケールでJEF1の強さのダウンバースト又はガストフロントと見られる突風が発生し、負傷者2名の人的被害や一部損壊の住家被害が発生した。また、静岡県掛川市では強度不明の別の突風が発生し、負傷者2名の人的被害や一部損壊の住家被害が発生した。(被害の状況は令和5年10月6日の静岡地方気象台による現地災害調査報告等による。)

5日から6日は、低気圧が日本海を進み、低気圧からのびる前線が日本付近を通過した影響で、西日本から北日本で雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月30日

熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	379.5	大分県由布市湯布院(ユフイン)	346.5
福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	287.5	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	252.0
宮崎県えびの市えびの高原(エビノコウゲン)	217.5	山口県山口市山口(ヤマグチ)	208.5
佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	193.0	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	182.5
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	178.5	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	174.0
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	164.0	愛媛県西予市宇和(ウワ)	153.5
岐阜県恵那市恵那(エナ)	136.0	広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ)	129.0
島根県浜田市波佐(ハサ)	117.0		

7月1日

鹿児島県十島村宝島(タカラジマ)	246.0	山口県宇部市宇部(ウベ)	190.0
宮崎県えびの市えびの高原(エビノコウゲン)	165.0	熊本県南小国町南小国(ミナミオクニ)	157.0
愛媛県松山市松山(マツヤマ)	155.0		
福岡県北九州市小倉南区空港北町(クウコウキタマチ)	152.0		
岐阜県高山市丹生川(ニウカワ)	150.5	大分県国東市国見(クニミ)	106.5
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	101.0	石川県志賀町志賀(シカ)	101.0
静岡県森町三倉(ミクラ)	100.5		

7月2日

鹿児島県十島村小宝島(コダカラジマ) 129.5

7月3日

熊本県山都町山都(ヤマト)	331.0	宮崎県高千穂町高千穂(タカチホ)	281.0
鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ)	219.5	福岡県久留米市久留米(クルメ)	205.5
佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	199.0	大分県日田市日田(ヒタ)	198.5
長崎県島原市島原(シマハラ)	105.0		

7月7日から7月10日

7月7日から10日は、梅雨前線が西日本から東北地方に停滞した。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となった。九州北部地方や中国地方をはじめ、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に大雨となり、島根県、福岡県、佐賀県及び大分県では線状降水帯が発生した。7日から10日にかけての総降水量は、九州北部地方の多い所で600ミリを超える大雨となり、九州北部地方や中国地方では、平年の7月の月降水量を超えた地点があった。また、東日本では10日は大気の状態が非常に不安定となり、栃木県下都賀郡野木町では日本版改良藤田スケールでJEF1の強さのダウンバーストと見られる突風が発生し、一部損壊の住家被害が発生した。(被害の状況は令和5年10月6日の静岡地方気象台による現地災害調査報告等による。)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月8日

島根県松江市鹿島(カシマ)	211.0	新潟県村上市三面(ミオモテ)	147.0
鳥取県境港市境(サカイ)	141.5	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	139.5
山口県下関市豊田(トヨタ)	116.5	岐阜県郡上市ひるがの	110.0

7月9日

大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	206.0	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	155.0
島根県大田市福光(フクミツ)	134.0	広島県広島市安佐北区三入(ミイリ)	125.0
福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	113.5	山口県下関市下関(シモノセキ)	106.0

7月10日

福岡県久留米市耳納山(ミノウサン)	376.0	大分県中津市耶馬溪(ヤバケイ)	270.5
佐賀県佐賀市北山(ホクサン)	247.0	山口県下関市下関(シモノセキ)	120.0

7月11日から7月13日

7月11日から13日は、梅雨前線が本州付近に停滞し、前線上の低気圧が北海道付近を通過した。低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となった。北陸地方や山陰を中心に大雨となり、石川県や富山県では線状降水帯が発生した。北海道地方や関東地方でも1時間に80ミリ以上の猛烈な雨の降った所があり、北海道、青森県、富山県、石川県、福井県及び鳥取県では、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。中国地方や北陸地方の多い所で日降水量が200ミリを超える大雨となった。また、11日は関東地方で大気の状態が非常に不安定となり、群馬県の館林市、邑楽郡板倉町、埼玉県の加須市、久喜市、幸手市、茨城県の猿島郡五霞町、猿島郡境町、坂東市及び千葉県野田市では日本版改良藤田スケールでJEF1の強さのダウンバースト又はガストフロントと見られる突風が発生し、負傷者1名の人的被害や一部損壊の住家被害が発生した。(被害の状況は、令和6年2月28日の水戸地方気象台、前橋地方気象台、熊谷地方気象台及び銚子地方気象台による現地災害調査報告等による。)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月11日

長崎県対馬市美津島(ミツシマ) 137.0

7月12日

石川県かほく市かほく 206.0 富山県富山市富山(トヤマ) 139.0

福岡県大牟田市大牟田(オオムタ) 122.0 北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ) 100.5

7月13日

鳥取県鳥取市湖山(コヤマ) 224.5 福井県坂井市三国(ミクニ) 136.5

富山県上市町上市(カミイチ) 129.0 北海道美幌町美幌(ビホロ) 121.0

石川県加賀市加賀中津原(カガナカツハラ) 111.0 新潟県上越市筒方(トウガタ) 107.0

岐阜県下呂市金山(カナヤマ) 105.5 京都府京丹后市峰山(ミネヤマ) 102.5

7月14日から7月16日

7月14日から16日は、梅雨前線が東北地方に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となった。東北北部を中心に大雨となり、秋田県では、24時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があったほか、14日から16日にかけての総降水量は、多い所で400ミリを超えた。また、秋田県や青森県では平年の7月の月降水量を超えた地点があった。このため、秋田県では土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生し、人的被害や住家被害が発生した。(被害の状況は令和5年7月28日の秋田地方気象台による災害時気象資料による。)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月15日

秋田県秋田市仁別(ニベツ) 330.5 岩手県西和賀町沢内(サワウチ) 203.0

青森県深浦町深浦(フカウラ) 167.0 北海道登別市登別(ノホリベツ) 158.5

岩手県西和賀町湯田(ユダ) 139.5 北海道松前町松前(マツマエ) 109.0

山形県真室川町差首鍋(サスナベ) 108.5

(4)7月30日～8月11日:沖縄・奄美、西日本(大雨、暴風、高波、高潮)＜台風第6号＞

7月28日09時にフィリピンの東で発生した台風第6号は北西から北へ進み、8月1日から2日にかけて大型で非常に強い勢力で沖縄地方にかなり接近し、進路を西へ変えて東シナ海へ進んでほとんど停滞した。その後、4日には進路を東へ変え、ゆっくりとした速度で5日から6日にかけて再び沖縄・奄美にかなり接近し、九州の南の海上に達した。7日は進路を北へ変え、9日には九州の西の海上を北上し、10日に朝鮮半島で温帯低気圧に変わった。

7月30日から8月11日にかけての総降水量は、沖縄・奄美では多い所で700ミリを超える大雨となり、平年の8月の月降水量の4倍を超えたほか、台風接近前から雨が降り続いた九州南部や四国地方では、多い所で1000ミリを超える大雨となり、平年の8月の月降水量の2倍を超えた地点があった。沖縄地方、九州南部、九州北部地方及び四国地方では線状降水帯が発生した。また、沖縄地方では最大瞬間風速が50メートルを超え、8月の1位の値を更新した地点があったほか、再接近時にも暴風となり、台風の影響が長く続いた。8日以降は、台風の北上に伴い九州南部、九州北部地方及び四国地方を中心に風が強まり、九州南部では40メートルを超える最大瞬間風速を観測した地点があった。

この台風により、沖縄地方や九州南部・奄美地方を中心に、大雨による土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生した。また、大規模な停電、断水等のライフラインへの被害が発生したほか、航空機の欠航や鉄道の運休等

の交通障害が発生した。(被害の状況は令和5年8月10日の内閣府とりまとめ等による)

7月30日から8月3日

台風第6号は、発達しながらフィリピンの東から沖縄の南へ進み、大型で非常に強い勢力で沖縄の南を西北西へ進んで沖縄地方にかなり接近し、東シナ海へ達した。台風本体の発達した雨雲がかかった沖縄地方では、多い所で日降水量が200ミリを超える大雨となった。また、沖縄県南城市で風速35.0メートルの猛烈な風を観測するなど、沖縄・奄美では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。更に、台風から離れた西日本太平洋側でも暖かく湿った空気が流れ込み、九州南部では多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月31日

宮崎県延岡市北方(キタカタ) 126.0

8月2日

沖縄県国頭村国頭(クニガミ) 291.5 沖縄県宮古島市城辺(グスクヘ) 173.5

宮崎県小林市野尻(ノシリ) 156.0

8月3日

沖縄県宮古島市下地島(シモジシマ) 208.0 沖縄県石垣市川平(カビラ) 169.0

沖縄県久米島町久米島(クメジマ) 122.0

[最大風速20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

7月31日

沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ) 21.5

8月1日

沖縄県南城市糸数(イトカズ) 33.5 沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ) 25.0

鹿児島県与論町与論島(ヨロンジマ) 20.2

8月2日

沖縄県南城市糸数(イトカズ) 35.0 鹿児島県与論町与論島(ヨロンジマ) 27.4

沖縄県宮古島市鏡原(カガミハラ) 24.6 沖縄県石垣市伊原間(イバルマ) 20.6

8月3日

沖縄県久米島町北原(キタハラ) 32.7 沖縄県宮古島市鏡原(カガミハラ) 27.5

沖縄県石垣市伊原間(イバルマ) 20.1

8月4日から8月6日

台風第6号は、東シナ海でほとんど停滞した後、進路を東へ変え、ゆっくりとした速度で再び沖縄・奄美にかなり接近し九州の南の海上に達した。台風本体や台風周辺の発達した雨雲がかかった沖縄地方や九州南部・奄美地方では雨となり、沖縄本島地方では線状降水帯が発生して、多い所で日降水量が200ミリを超える大雨となった。また、沖縄地方では風速25メートル以上、奄美地方でも風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月4日

沖縄県久米島町久米島(クメジマ) 153.0

8月5日

沖縄県久米島町久米島(クメジマ) 245.0 鹿児島県奄美市名瀬(ナセ) 197.0

8月6日

沖縄県本部町本部(モトブ) 233.0 宮崎県延岡市北方(キタカタ) 127.5

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

8月4日

沖縄県久米島町北原(キタハラ) 29.8

8月5日

沖縄県久米島町北原(キタハラ) 26.8 鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ) 21.9

8月6日

沖縄県うるま市宮城島(ミヤギシマ) 23.0 鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ) 21.1
 沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ) 20.6

8月7日から8月9日

台風第6号は、九州の南の海上で進路を北に変え、九州の南から西の海上を北上した。この影響で、西日本や東日本の太平洋側を中心に雨となり、九州南部では多い所で日降水量が400ミリを超える大雨となったほか、奄美地方、西日本や東日本の太平洋側では多い所で日降水量が200ミリを超える大雨となった。また、九州では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月7日

高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ) 296.5 徳島県那賀町木頭(キトウ) 205.0
 鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ) 200.5 奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ) 173.0
 三重県大台町宮川(ミヤガワ) 126.0 宮崎県串間市串間(クシマ) 101.0

8月8日

鹿児島県錦江町田代(タシロ) 236.5 宮崎県えびの市えびの高原(エビノコウゲン) 230.0
 三重県大台町宮川(ミヤガワ) 195.0 高知県梶原町梶原(ユスハラ) 194.0
 徳島県那賀町木頭(キトウ) 172.5 熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ) 147.5
 奈良県上北山村上北山(カミキタヤマ) 111.0

8月9日

鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ) 479.5 宮崎県美郷町神門(ミカト) 409.0
 熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ) 342.0 高知県いの町本川(ホンガワ) 262.5
 神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ) 222.5 大分県由布市湯布院(ユフイン) 190.0
 三重県大台町宮川(ミヤガワ) 156.5 愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ) 137.0
 静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 135.5 奈良県十津川村葛川(クズガワ) 127.0
 長崎県五島市上大津(カミオヅ) 125.0 沖縄県石垣市川平(カヒラ) 101.5

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

8月9日

鹿児島県枕崎市枕崎(マクラザキ) 25.2 長崎県大村市大村(オオムラ) 20.4

8月10日から8月11日

台風第6号は、対馬海峡を北上し朝鮮半島に上陸した後、10日15時までに温帯低気圧に変わった。台風や台風から変わった温帯低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、高知県では多い所で日降水量が500ミリを超える大雨となったほか、九州南部、九州北部地方、四国地方及び東海地方では多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、九州北部地方、四国地方及び北陸地方では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した所があった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月10日

高知県いの町本川(ホンガワ)	516.0	宮崎県日之影町日之影(ヒノカゲ)	190.0
徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	168.0	愛媛県新居浜市新居浜(ニイハマ)	156.0
佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	149.5	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	146.0
大分県佐伯市宇目(ウメ)	130.0	長崎県大村市大村(オオムラ)	124.5
福岡県福岡市早良区早良脇山(サワラワキヤマ)	108.5		

8月11日

高知県仁淀川町池川(イケガワ)	262.0
-----------------	-------

(5)7月31日～8月1日:東日本、東北地方(大雨、その他)＜大気不安定＞

7月31日から8月1日にかけて、上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、東日本から東北南部にかけて雨や雷雨となり、局地的に猛烈な雨が降ったほか、関東地方を中心にひょうの降った所があった。このため、関東地方を中心に人的被害や住家被害、農業被害が発生したほか、停電等のライフラインへの被害が発生した。(気象庁から関係機関への聞き取り等による。)

※東日本や東北南部では、日降水量 100 ミリ以上を観測した地点、最大風速 20メートル以上を観測地点はなし。

(6)8月11日～8月17日:西日本、東日本、北日本(大雨、暴風、高波、高潮、突風)＜台風第7号＞

8月8日09時に南鳥島近海で発生した台風第7号は、その後西北西へ進んで11日に小笠原諸島に接近した。12日から15日にかけては日本の南を北西へ進み、15日05時前に和歌山県に上陸し、近畿地方を北上して15日夜には日本海に達した。その後、日本海を北上し、17日に北海道の西の海上で温帯低気圧に変わった。

8月11日から17日にかけての総降水量は、東海地方の多い所で700ミリを超える大雨となったほか、近畿地方や中国地方でも多い所で500ミリを超える大雨となった。更に、台風から離れた岩手県でも暖かく湿った空気の影響で多い所で600ミリを超える大雨となった。台風が接近した地域では非常に強い風が吹き、11日は小笠原諸島で、14日から15日にかけては近畿地方や三重県で30メートルを超える最大瞬間風速を観測し、8月の1位の値を更新した地点があった。

この台風により、近畿地方や中国地方を中心に、大雨による土砂災害、浸水害等が発生した。大規模な停電等のライフラインへの被害が発生したほか、航空機の欠航や鉄道の運休等の交通障害が発生した。また、15日には、静岡県や埼玉県で突風が発生した。

8月11日から8月13日

台風第7号は、小笠原諸島に接近した後、日本の南を北西へ進んだ。小笠原諸島では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となり、風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。また、台風から離れた東北地方でも、暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、太平洋側を中心に雨となり、岩手県の多い所で日降水量が400ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月11日

東京都小笠原村母島(ハハジマ)	132.5
-----------------	-------

8月12日

岩手県大槌町大槌(オオツチ)	161.0	東京都小笠原村父島(チチジマ)	102.5
----------------	-------	-----------------	-------

8月13日

岩手県岩泉町小本(オモト)	484.0
---------------	-------

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

8 月 12 日

東京都小笠原村父島(チジマ) 21.3

8 月 14 日から 8 月 15 日

台風第 7 号は、日本の南を北西へ進んで 15 日 05 時前に和歌山県に上陸した。その後も、台風本体の発達した雨雲を維持したまま近畿地方を北上し、15 日夜に日本海に達した。台風本体や台風周辺の発達した雨雲がかかった西日本や東日本で雨となり、中国地方や東海地方では多い所で日降水量が 500 ミリを超える大雨となったほか、近畿地方でも多い所で 400 ミリの大雨となった。四国地方、近畿地方及び東海地方では風速 20 メートル以上の非常に強い風を観測した。また、台風から離れた東北地方でも暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で雨となり、多い所で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。静岡県静岡市において日本版改良藤田スケールで JEF1 の強さの竜巻と見られる突風が発生し、負傷者 1 名の人的被害や一部損壊の住家被害が発生したほか、埼玉県大里郡寄居町において日本版改良藤田スケールで JEF1 の強さの突風が発生し、一部損壊の住家被害が発生した。(被害の状況は令和 5 年 8 月 17 日の内閣府とりまとめ並びに令和 6 年 1 月 9 日の静岡地方気象台による現地災害調査報告並びに令和 6 年 2 月 21 日の熊谷地方気象台による現地災害調査報告等による。)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8 月 14 日

和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	298.5	岩手県久慈市下戸鎖(シモトクサリ)	176.5
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	170.0	京都府綾部市睦寄(ムツヨリ)	164.5
静岡県伊豆市湯ケ島(ユカシマ)	150.5	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	140.5
神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	123.5	山梨県上野原市上野原(ウエノハラ)	106.0

8 月 15 日

三重県大台町宮川(ミヤガワ)	551.0	岡山県鏡野町恩原(オンハラ)	530.5
鳥取県鳥取市佐治(サジ)	515.0	奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	400.0
滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	275.5	兵庫県養父市八鹿(ヨウカ)	274.0
和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	264.5	香川県小豆島町内海(ウチノミ)	263.0
徳島県美馬市竜王山(リュウオウサン)	260.0	京都府福知山市坂浦(サカウラ)	245.0
岐阜県大垣市上石津(カミイヅツ)	220.0	大阪府能勢町能勢(ノセ)	200.5
岩手県久慈市下戸鎖(シモトクサリ)	166.0	愛知県豊田市阿蔵(アゾウ)	144.5
静岡県川根本町川根本町(カワネホンチョウ)	142.0	福井県大野市九頭竜(クスリュウ)	114.0
島根県出雲市佐田(サダ)	104.0		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

8 月 15 日

大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	24.9	兵庫県神戸市中央区神戸(コウベ)	22.5
和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	22.0	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	21.9
高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	21.1	愛知県常滑市セントレア	20.0

8 月 16 日から 8 月 17 日

台風第 7 号は、日本海を北上し、17 日 15 時までには北海道の西の海上で温帯低気圧となった。台風本体や台風周辺の雨雲の影響で、東日本や北日本を中心に雨となり、東海地方では多い所で日降水量が 200 ミリを超える大雨となった。また、北海道地方では風速 20 メートル以上の非常に強い風を観測した所があった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月16日

静岡県富士市富士(フジ)	266.0	岐阜県美濃市美濃(ミノ)	206.0
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	110.0		

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

8月17日

北海道天塩町天塩(テシオ)	20.7
---------------	------

(7)8月17日～8月18日:西日本、東海地方、北陸地方(大雨、突風)＜低気圧＞

8月17日から18日にかけて、東シナ海を北上する低気圧の影響で、西日本を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。西日本、東海地方及び北陸地方を中心に雨や雷雨となり、九州南部、九州北部地方及び四国地方では日降水量が200ミリを超える大雨となった所があったほか、東海地方でも日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

この大雨により、中国地方や東海地方を中心に、土砂災害、浸水害等が発生した。また、停電等のライフラインへの被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。また、17日は、新潟県魚沼市において JEF0 のダウンバースト又はガストフロントと見られる突風が発生し、負傷者1名の人的被害が発生した。(被害の状況は気象庁から関係機関への聞き取り等による。)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月17日

高知県香美市大栃(オトチ)	248.5	徳島県阿南市蒲生田(カモダ)	149.5
長崎県諫早市諫早(イサハヤ)	124.0	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	123.5

8月18日

宮崎県都農町都農(ツノ)	268.0	大分県佐伯市宇目(ウメ)	162.0
福島県南会津町南郷(ナンゴウ)	108.5	鹿児島県曾於市大隅(オオスミ)	102.0

(8)9月3日～9月9日:西日本、東日本、北日本(大雨、暴風)＜台風第12号、前線、台風第13号＞

8月30日21時にトラック諸島付近で発生した台風第12号は北西へ進み、9月3日09時に小笠原近海で熱帯低気圧に変わった。その後、熱帯低気圧は西へ進んで5日に九州に接近した後、進路を東北東へ変えて、6日にかけて四国の南海上を東へ進み、7日03時に消滅した。また、5日は三陸沖の低気圧からのびる前線が本州付近に停滞し、6日には本州南岸まで南下した。台風第13号は、5日21時に日本の南で発生して北北東へ進んだ。8日には東海道沖へ進んで熱帯低気圧に変わり、9日09時に消滅した。

台風第12号、台風第12号から変わった熱帯低気圧及び前線の影響で、西日本から北日本では4日から6日にかけて、局地的に日降水量が100ミリを超える大雨となった。

また、台風第13号や台風第13号から変わった熱帯低気圧の東側では、南から暖かく湿った空気が流れ込み、台風の中心から離れた場所で雨雲が発達した。7日から9日にかけての総降水量は、関東地方の多い所で400ミリを超え、平年の9月の月降水量を超えた地点があったほか、東京都及び静岡県では、8日は非常に強い風が吹き、これらの地域では30メートルを超える最大瞬間風速を観測した所があった。

この台風により、関東地方や東北太平洋側で、大雨による土砂災害、河川の増水や氾濫、浸水害等が発生した。また、大規模な停電等のライフラインへの被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害の状況は令和5年9月12日の内閣府とりまとめ等による。)

9月3日から9月4日まで

台風第12号や台風第12号から変わった熱帯低気圧は、日本の南を西へ進んだ。熱帯低気圧本体や周辺の発達した雨雲がかかった西日本や東日本では雨となり、関東地方を中心に多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、熱帯低気圧から離れた北日本でも暖かく湿った空気が流れ込み、東北地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

9月4日

茨城県北茨城市花園(ハナヅリ)	187.0	栃木県真岡市真岡(モカ)	150.0
福島県川内村川内(カワチ)	140.5	鳥取県鳥取市鹿野(シノ)	112.0

9月5日から9月6日まで

台風第12号から変わった熱帯低気圧は、西へ進んで九州に接近した後、進路を東北東へ変え四国の南海上を東へ進んだ。また、5日は三陸沖の低気圧からのびる前線が本州付近に停滞し、6日には本州南岸まで南下した。前線に向かって熱帯低気圧周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだため、前線の活動が活発となった。熱帯低気圧、前線及び低気圧に近い、九州北部地方、中国地方、近畿地方、北陸地方、東北地方及び北海道地方では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

9月5日

島根県海士町海士(アマ)	156.0	山口県萩市萩(ハギ)	144.0
鳥取県境港市境(カイ)	143.0	北海道苫小牧市苫小牧(トモコイ)	132.0
北海道標茶町標茶(シバチャ)	124.0	富山県黒部市宇奈月(ウツギ)	116.0
北海道中標津町中標津(カシハツ)	101.0		

9月6日

宮城県石巻市石巻(シノキ)	156.0	和歌山県新宮市新宮(シクウ)	127.5
---------------	-------	----------------	-------

9月7日から9月9日まで

7日は、台風第12号から変わった熱帯低気圧は消滅したが、引き続き前線が伊豆諸島付近に停滞した。前線に向かって台風第13号周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだため、伊豆諸島や東日本太平洋側を中心に雨となった。8日は、台風第13号が東海道沖まで進んで熱帯低気圧に変わり、9日09時に消滅した。台風や台風から変わった熱帯低気圧の東側では南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、台風の中心から離れた場所で雨雲が発達し、東京都(伊豆諸島)、千葉県、茨城県及び福島県では、1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降った所があり、1時間降水量が観測史上1位の値を更新した地点があった。関東地方の多い所で日降水量が300ミリを超える大雨となったほか、静岡県や東京都(伊豆諸島)、福島県でも多い所で100ミリを超える大雨となった。また、東京都や静岡県では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

9月8日

千葉県茂原市茂原(モハラ)	391.0	茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	272.0
東京都三宅村三宅坪田(ミヤケホヅタ)	246.0	福島県いわき市山田(ヤマダ)	182.5
神奈川県三浦市三浦(ミウラ)	121.5	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	106.0

[最大風速20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

9月8日

東京都大島町大島北ノ山(オノマキタノヤマ)	23.6	静岡県南伊豆町石廊崎(イロウサキ)	20.8
-----------------------	------	-------------------	------

(9)12月17日～12月23日：西日本、東日本、北日本(大雪、暴風雪、高波)＜冬型の気圧配置、低気圧＞

12月17日から18日にかけては、低気圧が発達しながら千島近海へ進み、冬型の気圧配置が強まって北日本を中心に強い寒気が流れ込んだ。北海道留萌市では日降雪量 59 センチの観測史上 1 位の値を記録するなど北海道地方を中心に大雪となり、北陸地方や北日本の日本海側を中心に風速 20メートル以上の非常に強い風を観測した。21日から23日にかけては、再び冬型の気圧配置が強まり、全国的に強い寒気が流れ込んだ影響で、北陸地方から北日本の日本海側を中心に大雪となった。

この一連の大雪により、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生したほか、全国の広い範囲で停電、断水等のライフラインへの被害が発生した。(令和6年5月17日の内閣府とりまとめ等による)

[日降雪量 50 センチ以上を観測した主な地点(単位:センチ)]

12月17日

北海道枝幸町歌登(ウタノホリ) 50

12月18日

北海道沼田町石狩沼田(イシカリヌマタ) 60 北海道留萌市留萌(ルモイ) 59

12月21日

岐阜県白川村白川(シラカワ) 52

12月22日

新潟県上越市安塚(ヤヅガ) 57 福井県大野市大野(オオノ) 55

岐阜県郡上市長滝(ナガタキ) 54 山形県大蔵村肘折(ヒジオリ) 51

長野県野沢温泉村野沢温泉(ノザワオンセン) 50

12月23日

青森県青森市酸ヶ湯(スカユ) 84 北海道豊富町豊富(トホトミ) 60

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

12月17日

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ) 27.3 北海道留萌市留萌(ルモイ) 25.8

山形県酒田市飛島(トビシマ) 25.3 秋田県八峰町八森(ハチモリ) 23.0

北海道江差町江差(エサシ) 22.6 新潟県佐渡市相川(アイカワ) 21.2

北海道猿払村浜鬼志別(ハマオニシベツ) 21.0 東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 20.5

12月18日

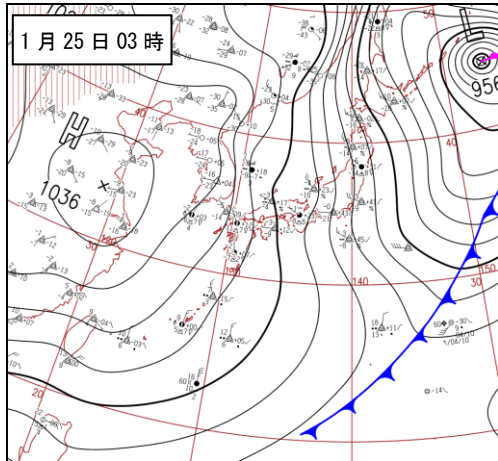
北海道えりも町えりも岬(エリモサキ) 24.0 北海道留萌市留萌(ルモイ) 20.6

資料 1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料

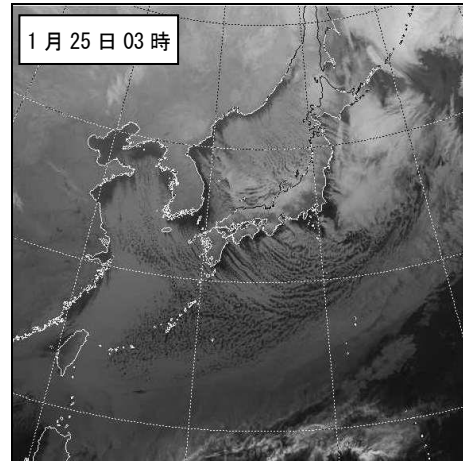
○ 災害番号 (1)

冬型の気圧配置や低気圧による大雪等 (1月24日~1月26日)

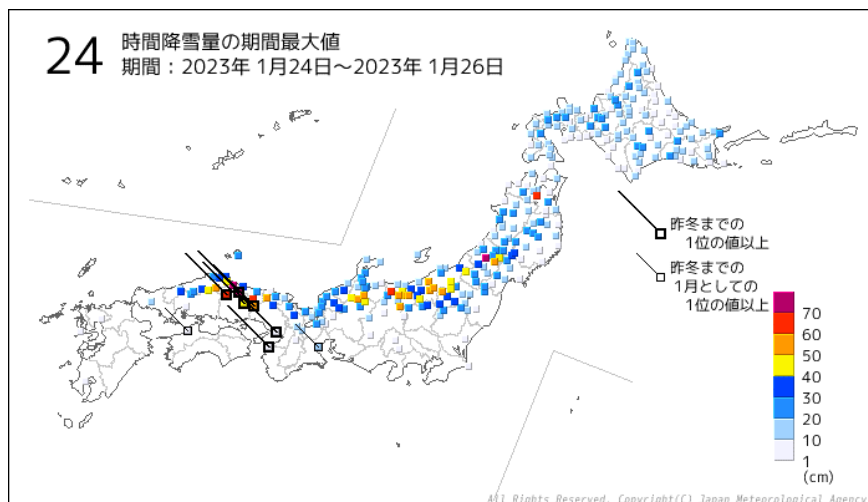
地上天気図



気象衛星画像 (赤外)



期間最大 24 時間降雪量分布図 (1月24日~1月26日)

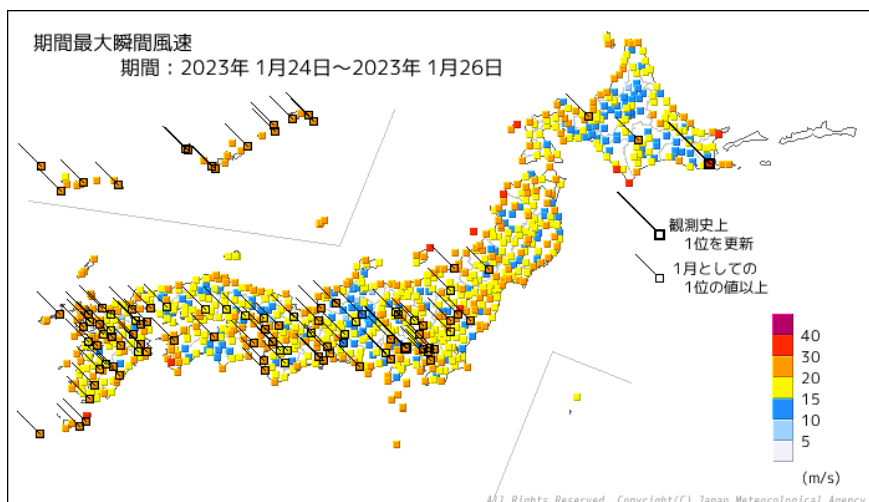


期間最大 24 時間降雪量表 (上位 10 地点) (1月24日~1月26日)

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降雪量		
				(cm)	月日	時分
1	岡山県	真庭市	上長田(カミナガタ)	93	2023/1/25	08:00
2	鳥取県	西伯郡大山町	大山(ダイセン)	92	2023/1/25	08:00
3	山形県	最上郡大蔵村	肘折(ヒジオリ)	81	2023/1/26	21:00
4	青森県	青森市	酸ヶ湯(スカユ)	69	2023/1/26	17:00
5	長野県	北安曇郡小谷村	小谷(オタリ)	66	2023/1/25	10:00
5	鳥取県	八頭郡智頭町	智頭(チズ)	66	2023/1/25	15:00
7	岡山県	新見市	千屋(チヤ)	65	2023/1/25	07:00
8	新潟県	魚沼市	守門(スモン)	55	2023/1/26	23:00
8	兵庫県	美方郡香美町	兔和野高原(ウワノコウゲン)	55	2023/1/25	07:00
10	長野県	下高井郡野沢温泉村	野沢温泉(ノザワオンセン)	54	2023/1/25	04:00
10	岡山県	美作市	今岡(イマオカ)	54	2023/1/25	16:00

]: 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています。(資料不足値)

期間最大瞬間風速分布図（1月24日～1月26日）



期間最大瞬間風速表（上位10地点）（1月24日～1月26日）

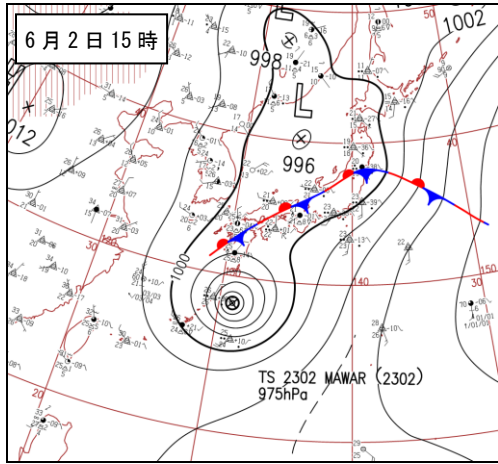
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	風速			
				(m/s)	風向	月日	時分
1	北海道 根室地方	目梨郡羅臼町	羅臼(ラウス)	36.4	北北西	2023/1/26	04:23
2	北海道 日高地方	幌泉郡えりも町	えりも岬(エリモミサキ)	35.4	西	2023/1/25	15:49
3	北海道 根室地方	根室市	厚床(アットコ)	34.8	南	2023/1/24	04:32
4	山形県	酒田市	飛島(トビシマ)	32.8	西北西	2023/1/25	17:48
5	鹿児島県	西之表市	種子島(タネガシマ)	31.4	北西	2023/1/24	14:34
6	栃木県	那須郡那須町	那須高原(ナスコウゲン)	31.0	西北西	2023/1/24	23:29
7	北海道 檜山地方	奥尻郡奥尻町	奥尻(オクシリ)	30.8	北西)	2023/1/25)	07:42)
8	北海道 日高地方	浦河郡浦河町	浦河(ウラカワ)	30.6	西	2023/1/24	01:13
9	秋田県	山本郡八峰町	八森(ハチモリ)	30.3	西北西	2023/1/25	24:00
10	高知県	宿毛市	宿毛(スクモ)	30.2	北西	2023/1/24	15:30

) : 統計を行う対象資料が許容範囲内で欠けていますが、上位の統計に用いる際は一部の例外を除いて原則として正常値と同等に扱います。(準正常値)

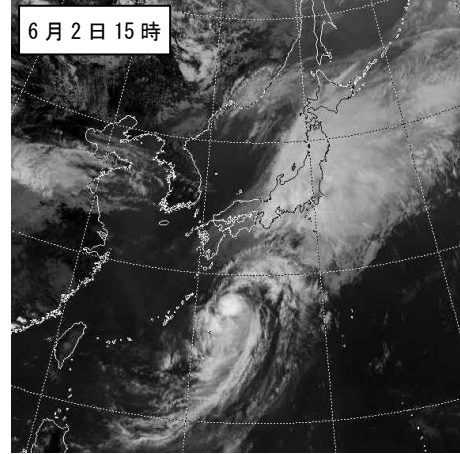
○ 災害番号（2）

梅雨前線及び台風第2号による西日本から東日本にかけての太平洋側を中心とした大雨等
（6月1日～6月3日）

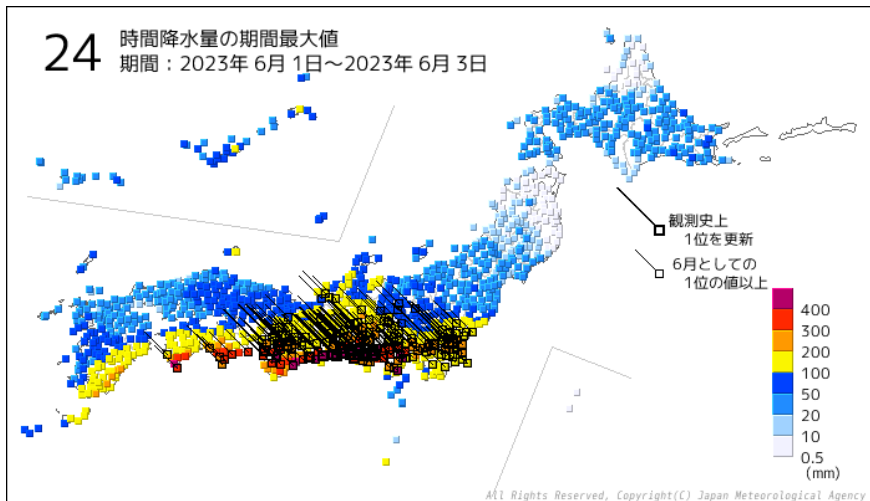
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大24時間降水量分布図（6月1日～6月3日）



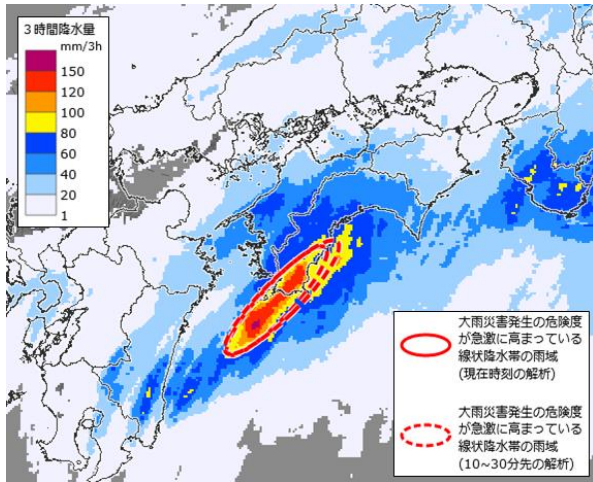
期間最大24時間降水量表（上位10地点）（6月1日～6月3日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	静岡県	浜松市天竜区	春野(ハルノ)	500.5]	2023/6/2	24:00
2	静岡県	浜松市天竜区	熊(クマ)	497.5	2023/6/2	23:40
3	三重県	鳥羽市	鳥羽(トバ)	490.5	2023/6/3	01:30
4	静岡県	藤枝市	高根山(タカネサン)	478.5	2023/6/2	23:50
5	静岡県	伊豆市	天城山(アマギサン)	458.5	2023/6/3	02:00
6	静岡県	周智郡森町	三倉(ミクラ)	452.5]	2023/6/2	23:50
7	愛知県	田原市	伊良湖(イラコ)	451.5	2023/6/3	01:30
8	神奈川県	足柄下郡箱根町	箱根(ハコネ)	441.0	2023/6/3	02:00
9	静岡県	御殿場市	御殿場(ゴテンバ)	435.0	2023/6/3	01:00
10	静岡県	静岡市葵区	鍵穴(カギアナ)	430.0	2023/6/3	00:10

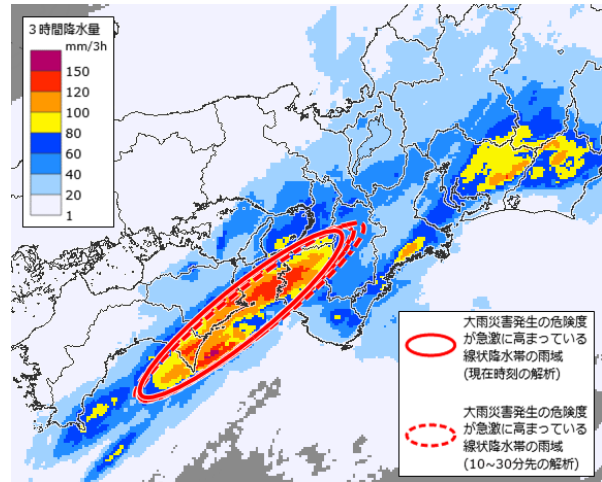
] : 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています。(資料不足値)

「顕著な大雨に関する気象情報」発表時における3時間降水量（解析雨量）

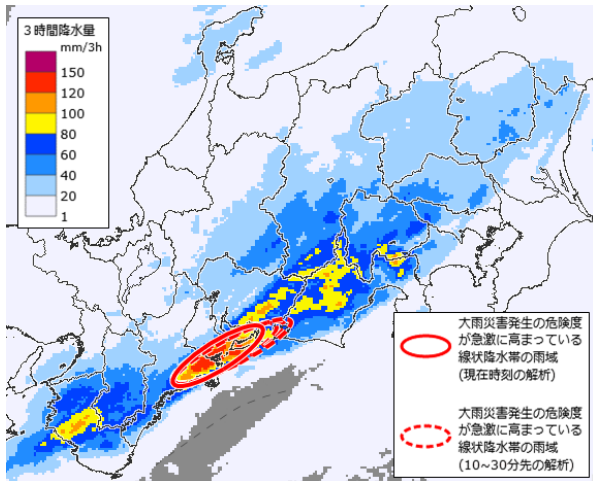
6月2日08時00分



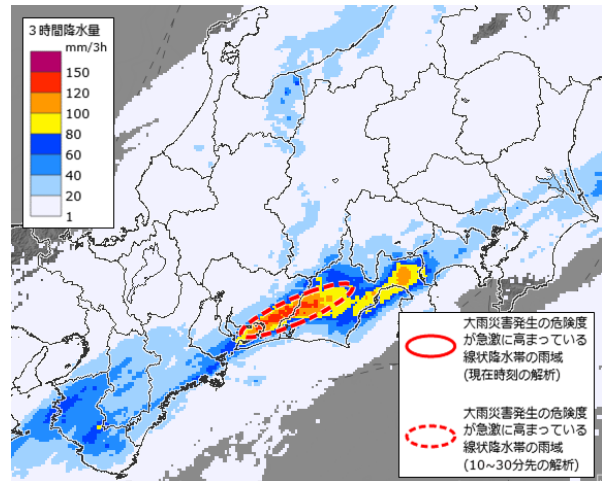
6月2日13時00分



6月2日16時00分



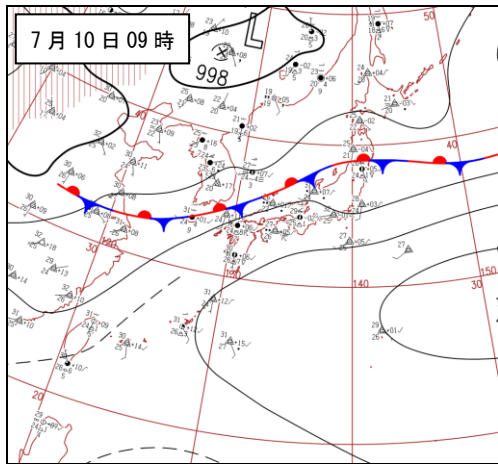
6月2日20時50分



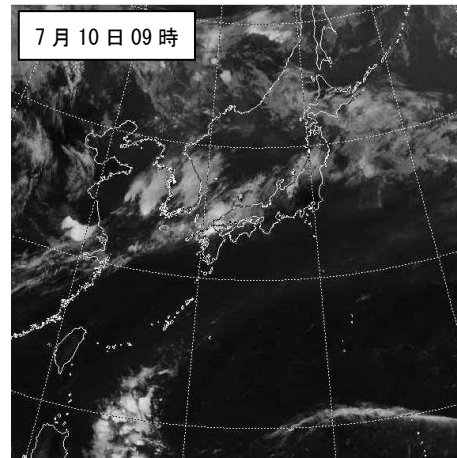
○ 災害番号（3）

梅雨前線による九州北部地方を中心とした大雨（7月7日～7月10日）

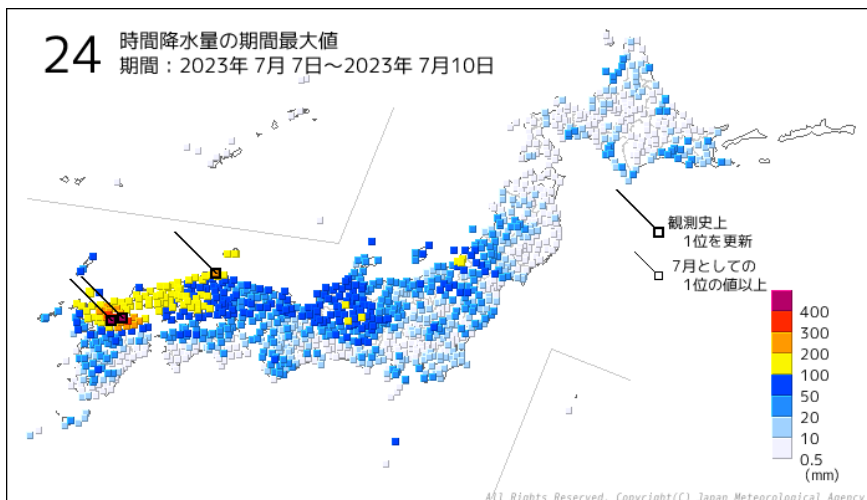
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大 24 時間降水量分布図（7月7日～7月10日）

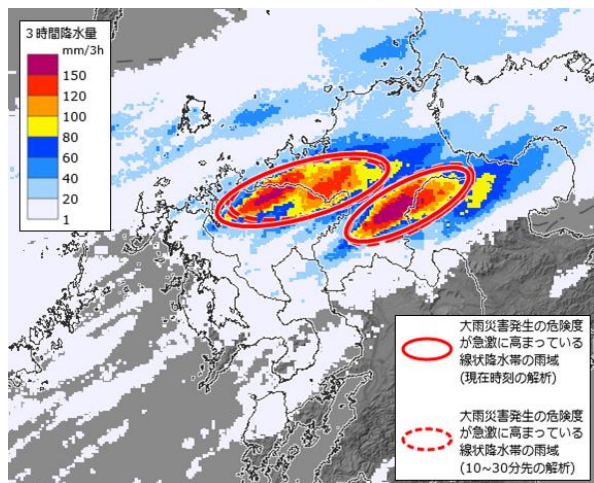


期間最大 24 時間降水量表（上位 10 地点）（7月7日～7月10日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	福岡県	田川郡添田町	英彦山(ヒコサン)	423.0	2023/7/10	09:50
2	福岡県	久留米市	耳納山(ミノウサン)	402.5	2023/7/10	09:30
3	福岡県	朝倉市	朝倉(アサクラ)	349.0	2023/7/10	09:20
4	佐賀県	鳥栖市	鳥栖(トス)	326.5	2023/7/10	08:10
5	大分県	中津市	耶馬溪(ヤバケイ)	315.5	2023/7/10	10:10
6	福岡県	太宰府市	太宰府(ダザイフ)	294.0	2023/7/10	07:20
7	佐賀県	佐賀市	北山(ホクザン)	273.0	2023/7/10	07:20
8	大分県	日田市	日田(ヒタ)	272.0	2023/7/10	17:10
9	大分県	宇佐市	院内(インナイ)	257.5	2023/7/10	10:30
10	福岡県	田川郡添田町	添田(ソエダ)	250.0	2023/7/10	14:40

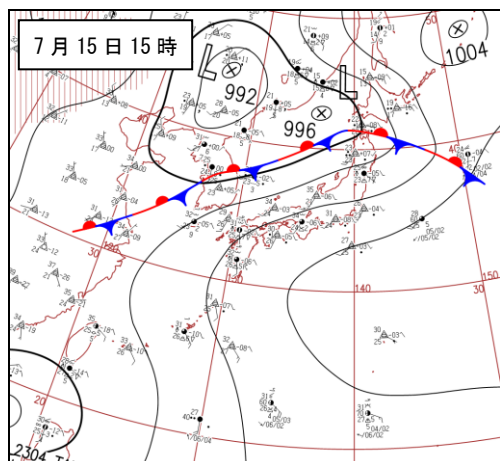
「顕著な大雨に関する気象情報」発表時における3時間降水量（解析雨量）

7月10日07時00分

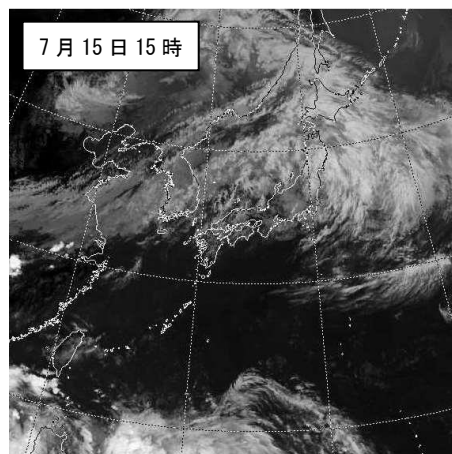


梅雨前線による東北北部を中心とした大雨（7月14日～7月16日）

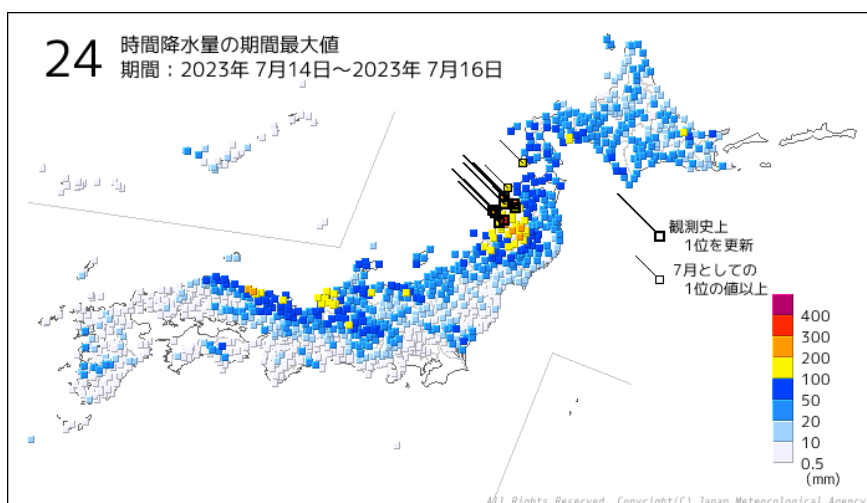
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大24時間降水量分布図（7月14日～7月16日）



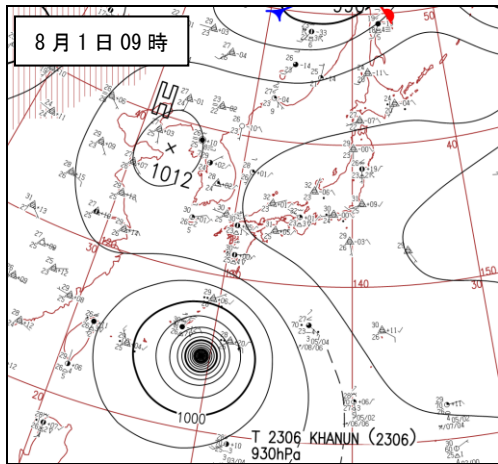
期間最大24時間降水量表（上位10地点）（7月14日～7月16日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	秋田県	秋田市	仁別(ニベツ)	332.5	2023/7/16	02:10
2	秋田県	山本郡藤里町	藤里(フジサト)	289.5	2023/7/16	02:30
3	秋田県	仙北市	角館(カクノダテ)	257.0	2023/7/16	02:50
4	秋田県	男鹿市	男鹿(オガ)	244.0	2023/7/15	15:10
5	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内(サウウチ)	242.5	2023/7/16	05:10
6	秋田県	秋田市	岩見三内(イワミサンナイ)	234.0	2023/7/16	00:30
7	秋田県	山本郡八峰町	八森(ハチモリ)	229.0	2023/7/16	00:10
8	鳥取県	鳥取市	湖山(コヤマ)	224.5	2023/7/14	00:30
9	鳥取県	鳥取市	青谷(アオヤ)	207.5	2023/7/14	00:10
10	秋田県	仙北市	田沢湖高原(タザワココウゲン)	204.5	2023/7/16	03:20

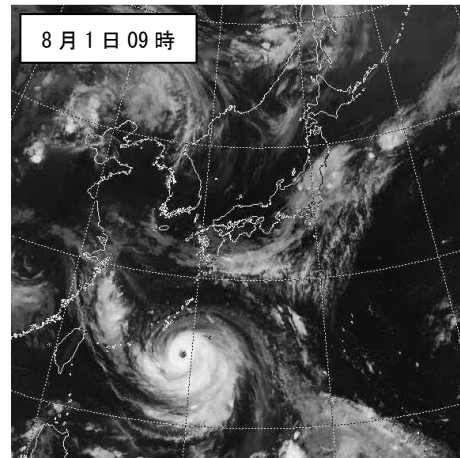
○ 災害番号（4）

台風第6号による暴風や大雨等（7月30日～8月11日）

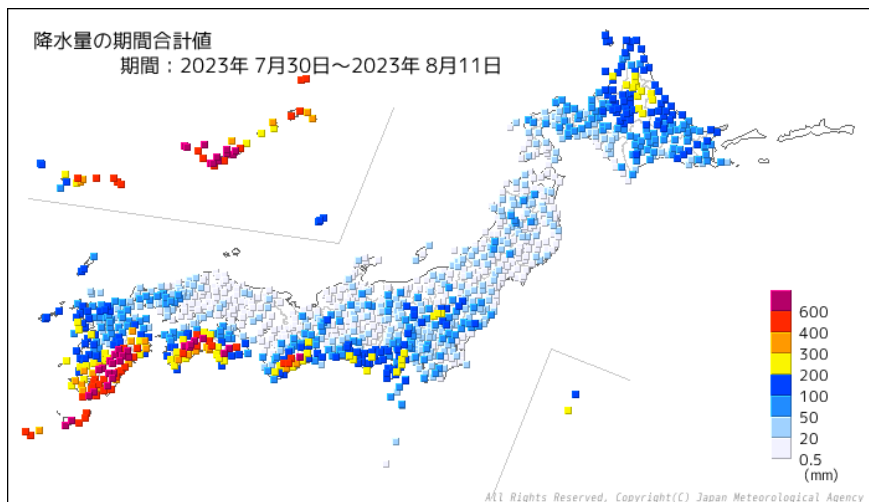
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



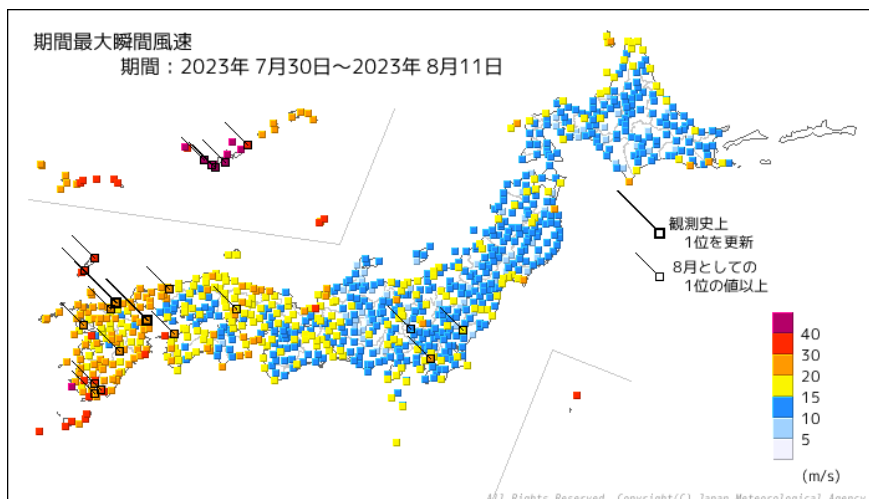
期間総降水量分布図（7月30日～8月11日）



期間総降水量表（上位10地点）（7月30日～8月11日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量 (mm)
1	宮崎県	東臼杵郡美郷町	神門(ミカド)	1074.0
2	高知県	吾川郡仁淀川町	鳥形山(トリガタヤマ)	1011.5
3	高知県	吾川郡いの町	本川(ホンガワ)	999.5
4	宮崎県	東臼杵郡諸塚村	諸塚(モロツカ)	966.5
5	宮崎県	西臼杵郡日之影町	日之影(ヒノカゲ)	929.0
6	高知県	安芸郡馬路村	魚梁瀬(ヤナセ)	926.0
7	高知県	高岡郡津野町	船戸(フナト)	861.5
8	鹿児島県	熊毛郡屋久島町	屋久島(ヤクシマ)	837.5
9	宮崎県	延岡市	北方(キタカタ)	820.0
10	高知県	吾川郡仁淀川町	池川(イケガワ)	809.0

期間最大瞬間風速分布図（7月30日～8月11日）



期間最大瞬間風速表（上位10地点）（7月30日～8月11日）

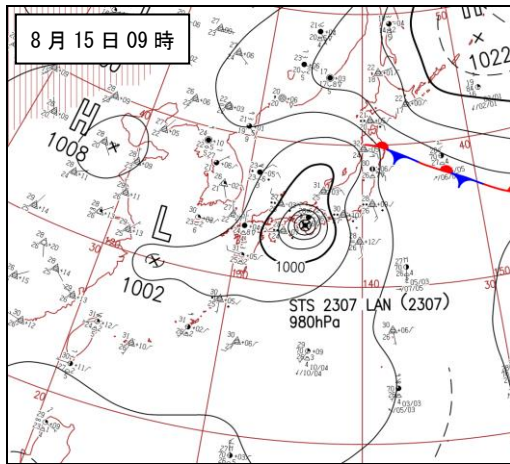
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	風速			
				(m/s)	風向	月日	時分
1	沖縄県	那覇市	那覇(ナハ)	52.5	東南東	2023/8/2	04:14
2	沖縄県	南城市	糸数(イトカズ)	50.6	東	2023/8/2	01:55
3	沖縄県	島尻郡渡嘉敷村	渡嘉敷(トカシキ)	50.4	南東)	2023/8/2)	12:46)
4	沖縄県	うるま市	宮城島(ミヤギジマ)	49.9	南東	2023/8/2	08:38
5	沖縄県	那覇市	安次嶺(アシミネ)	46.3	東	2023/8/2	02:48
6	沖縄県	島尻郡久米島町	北原(キタハラ)	43.2	南東	2023/8/2	21:30
7	沖縄県	島尻郡伊是名村	伊是名(イゼナ)	42.5	東	2023/8/2	04:26
8	鹿児島県	枕崎市	枕崎(マクラザキ)	41.8	南東	2023/8/9	05:12
9	沖縄県	国頭郡国頭村	奥(オク)	41.1	東南東	2023/8/2	03:41
10	沖縄県	名護市	名護(ナゴ)	40.7	東南東	2023/8/1	22:58

) : 統計を行う対象資料が許容範囲内で欠けていますが、上位の統計に用いる際は一部の例外を除いて原則として正常値と同等に扱います。(準正常値)

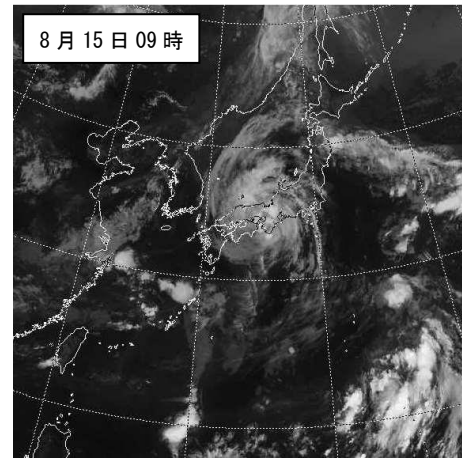
○ 災害番号（6）

台風第7号による暴風や大雨等（8月11日～8月17日）

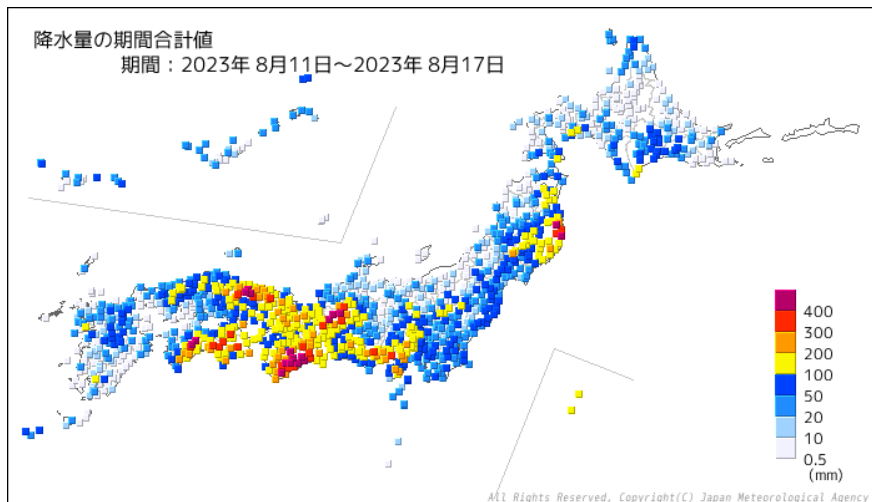
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



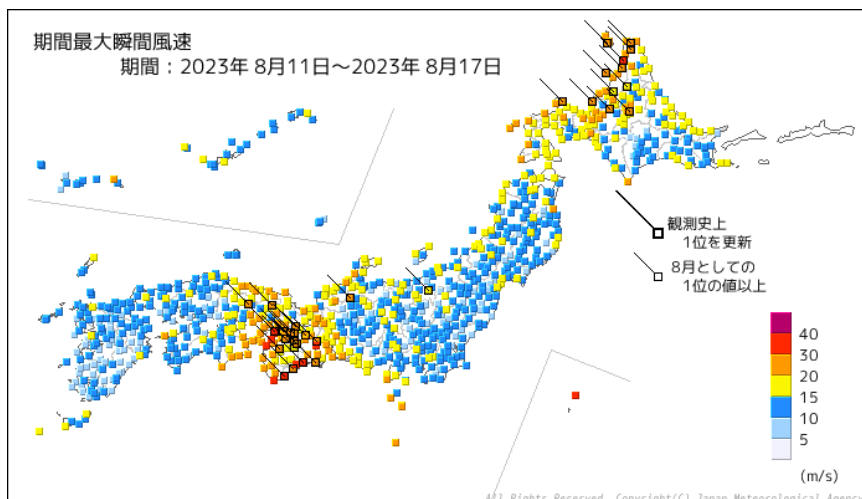
期間総降水量分布図（8月11日～8月17日）



期間総降水量表（上位10地点）（8月11日～8月17日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量
				(mm)
1	三重県	多気郡大台町	宮川(ミヤガワ)	711.0
2	岩手県	下閉伊郡岩泉町	小本(オモト)	678.0
3	奈良県	吉野郡下北山村	下北山(シモキタヤマ)	595.0
4	岡山県	苫田郡鏡野町	恩原(オンバラ)	593.5
5	和歌山県	東牟婁郡那智勝浦町	色川(イロカワ)	592.5
6	奈良県	吉野郡十津川村	葛川(クズカワ)	588.5
7	奈良県	吉野郡上北山村	上北山(カミキタヤマ)	567.5
8	鳥取県	鳥取市	佐治(サジ)	537.5
9	岩手県	久慈市	下戸鎖(シモトクサリ)	531.0
10	鳥取県	鳥取市	鹿野(シカノ)	506.0

期間最大瞬間風速分布図（8月11日～8月17日）



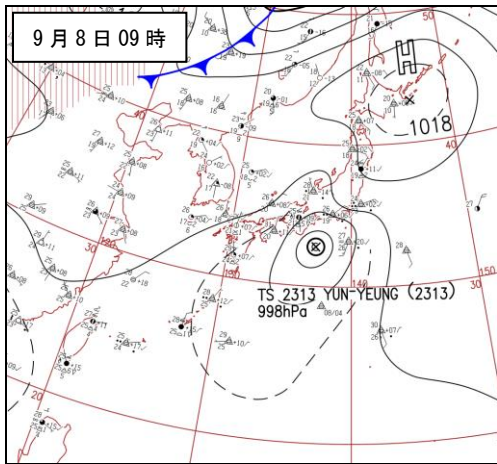
期間最大瞬間風速表（上位10地点）（8月11日～8月17日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	風速			
				(m/s)	風向	月日	時分
1	三重県	尾鷲市	尾鷲(オワセ)	37.9	東北東	2023/8/15	02:16
2	兵庫県	神戸市中央区	神戸(コウベ)	35.7	北北東	2023/8/15	06:59
3	和歌山県	東牟婁郡串本町	潮岬(シオノミサキ)	33.5	北北東	2023/8/14	23:21
4	和歌山県	和歌山市	和歌山(ワカヤマ)	32.0	北	2023/8/15	03:47
5	大阪府	泉南郡田尻町	関空島(カンクウジマ)	31.9	北北東	2023/8/15	06:25
6	三重県	北牟婁郡紀北町	紀伊長島(キイナガシマ)	31.7	東	2023/8/15	08:29
7	和歌山県	新宮市	新宮(シングウ)	31.5	東北東	2023/8/14	23:41
8	兵庫県	神戸市中央区	神戸空港(コウベクウコウ)	31.4	北北東	2023/8/15	06:08
9	東京都	小笠原村	父島(チチジマ)	31.2	北北東	2023/8/11	12:29
10	三重県	津市	津(ツ)	30.6	東	2023/8/15	06:32

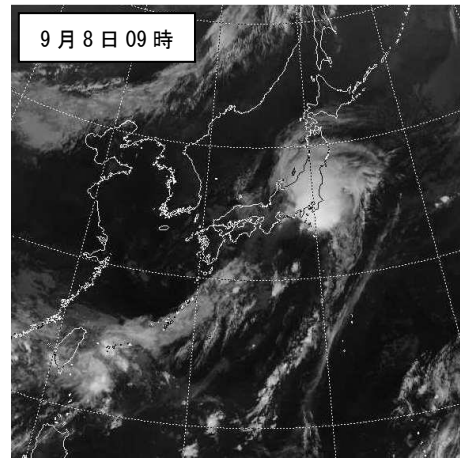
○ 災害番号（8）

台風第13号等による大雨等（9月7日～9月9日）

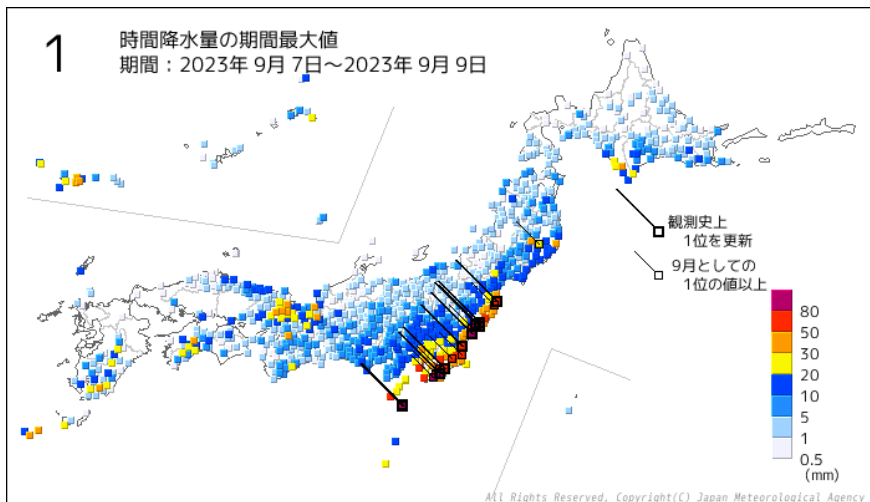
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



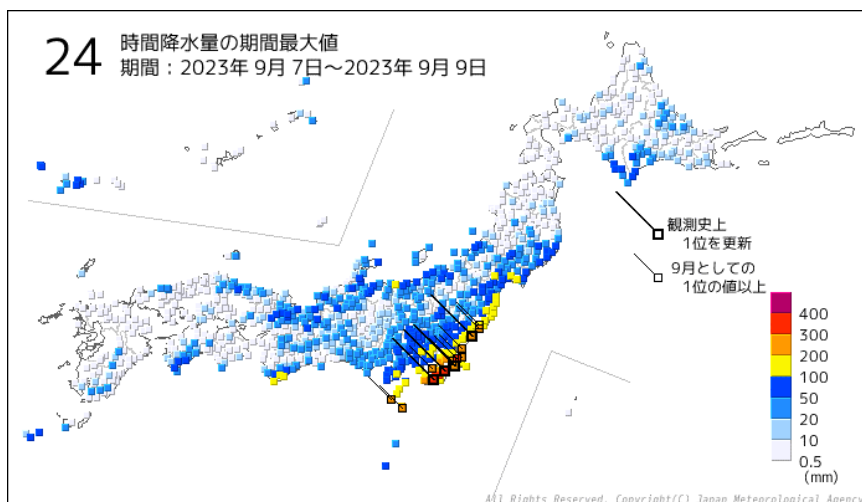
期間最大1時間降水量分布図（9月7日～9月9日）



期間最大1時間降水量表（上位10地点）（9月7日～9月9日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	東京都	三宅村	三宅坪田(ミヤケツボタ)	123.5	2023/9/8	07:13
2	東京都	三宅村	三宅島(ミヤケジマ)	122.0	2023/9/8	07:10
3	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	109.5	2023/9/8	11:17
4	茨城県	日立市	日立(ヒタチ)	93.0	2023/9/8	18:15
5	茨城県	北茨城市	花園(ハナゾノ)	84.0	2023/9/8	19:14
6	千葉県	鴨川市	鴨川(カモガワ)	83.5	2023/9/8	10:45
7	福島県	いわき市	山田(ヤマダ)	81.0	2023/9/8	20:14
8	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	78.0	2023/9/8	12:13
9	茨城県	北茨城市	北茨城(キタイバラキ)	77.5	2023/9/8	20:07
10	福島県	南相馬市	原町(ハラマチ)	71.0	2023/9/9	01:11

期間最大 24 時間降水量分布図（9 月 7 日～9 月 9 日）

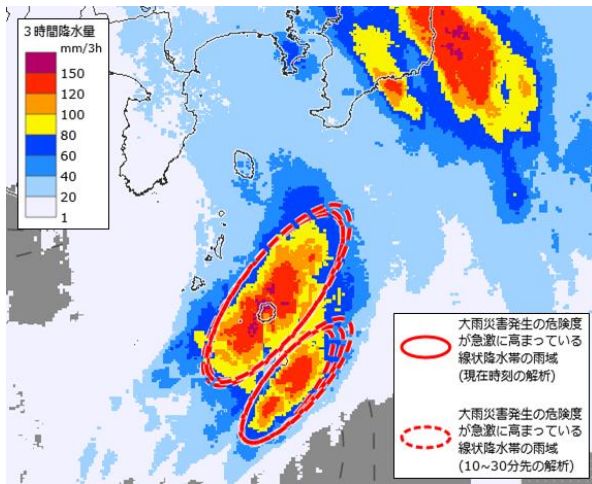


期間最大 24 時間降水量表（上位 10 地点）（9 月 7 日～9 月 9 日）

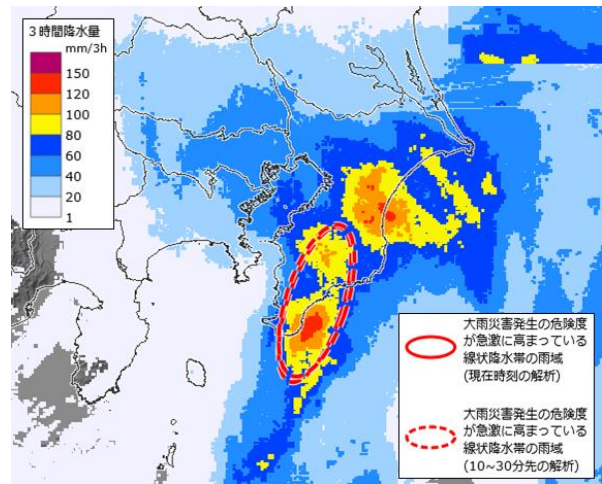
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	392.0	2023/9/9	02:20
2	千葉県	鴨川市	鴨川(カモガワ)	355.0	2023/9/8	22:30
3	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	352.0	2023/9/8	22:40
4	千葉県	君津市	坂畑(サカハタ)	345.0	2023/9/9	03:50
5	千葉県	香取市	香取(カトリ)	304.5	2023/9/9	05:30
6	茨城県	日立市	日立(ヒタチ)	282.5	2023/9/9	07:50
7	茨城県	鹿嶋市	鹿嶋(カシマ)	275.0	2023/9/9	06:00
8	千葉県	山武郡横芝光町	横芝光(ヨコシバヒカリ)	274.5	2023/9/9	02:20
9	千葉県	市原市	牛久(ウシク)	271.0	2023/9/9	01:50
10	茨城県	鉾田市	鉾田(ホコタ)	270.5	2023/9/9	05:50

「顕著な大雨に関する気象情報」発表時における3時間降水量（解析雨量）

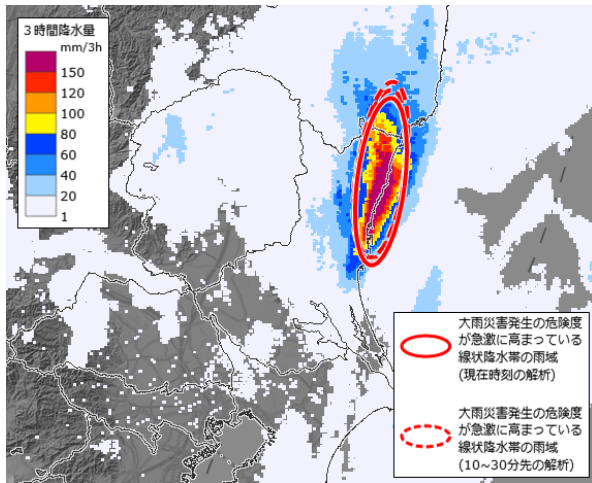
9月8日07時50分



9月8日09時50分



9月8日19時30分



資料1-2-2 令和5年(2023年)に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	日本版改良藤田(JEF)スケール	風速	気象状況
7月4日 16時40分頃	不明	静岡県掛川市	負傷者2名	不明	不明	上空の寒気、 暖気の移流
7月4日 17時00分頃	ダウンバースト または ガストフロント	静岡県菊川市	負傷者2名	JEF1	約50m/s	
7月11日 18時10分頃	ダウンバースト または ガストフロント	群馬県館林市	負傷者1名	JEF1	約50m/s	暖気の移流、 日中の昇温
7月25日 13時40分頃	不明	熊本県菊池市	負傷者2名	不明	不明	上空の寒気、 暖気の移流
8月15日 11時00分頃	竜巻	静岡県静岡市	負傷者1名	JEF1	約40m/s	台風、 暖気の移流
8月17日 15時20分頃	ダウンバースト または ガストフロント	新潟県魚沼市	負傷者1名	JEF0	約30m/s	暖気の移流、 日中の昇温

被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したものを掲載。

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載している。

(<https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)とは、米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをより的確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケール。

階級	風速(m/s)の範囲	主な被害の状況(参考)
	(3秒値)	
JEF0	25-38	<ul style="list-style-type: none"> 木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損傷が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。 園芸施設において、被覆材(ビニルなど)がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。 物置が移動したり、横転する。 自動販売機が横転する。 コンクリートブロック塀(鉄筋なし)の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。 樹木の枝(直径2cm~8cm)が折れたり、広葉樹(腐朽有り)の幹が折損する。
JEF1	39-52	<ul style="list-style-type: none"> 木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。 園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。 軽自動車や普通自動車(コンパクトカー)が横転する。 通常走行中の鉄道車両が転覆する。 地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。 道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。 コンクリートブロック塀(鉄筋あり)が損壊したり、倒壊する。 樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53-66	<ul style="list-style-type: none"> 木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷(ゆがみ、ひび割れ等)する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。 鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。 普通自動車(ワンボックス)や大型自動車が横転する。 鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。 コンクリートブロック塀(控壁のあるもの)の大部分が倒壊する。 広葉樹の幹が折損する。 墓石の碑石が転倒したり、ずれたりする。
JEF3	67-80	<ul style="list-style-type: none"> 木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。 鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。 工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。 鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。 アスファルトがはく離・飛散する。
JEF4	81-94	<ul style="list-style-type: none"> 工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。
JEF5	95-	<ul style="list-style-type: none"> 鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

(https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf) より

2 令和5年(2023年)台風の概要

2-1 令和5年(2023年)に発生した台風

台風の発生数は平年より少ない17個(平年値25.1個)となり、1951年(昭和26年)の統計開始以降3番目の少なさとなった。特に、9月の発生数が2個(平年値5.0個)、10月の発生数が2個(平年値3.4個)となるなど、9月以降の発生数5個(平年値11.6個)は1951年(昭和26年)の統計開始以降最も少なくなった。日本への台風の接近数は平年より少ない9個(平年値11.7個)であった。日本への台風の上陸は台風第7号の1個(平年値3.0個)であった。

表2.1 令和5年(2023年)の台風発生数*1、日本への接近数*2、日本への上陸数*3と
令和4年(2022年)及び平年値との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
令和5年 (2023年)	発生数				1	1	1	3	6	2	2		1	17
	接近数					1	2	1	3	3	1			9
	上陸数								1					1
令和4年 (2022年)	発生数				2		2	2	5	7	5	1	1	25
	接近数				1			3	3	6				11
	上陸数							1	1	1				3
平年値	発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
	接近数				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
	上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0

(注) ・平年値は、平成3年(1991年)～令和2年(2020年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

発生*1 「発生」は協定世界時(UTC)を基準とする。

接近*2 台風が中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

上陸*3 台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。ただし、小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間	
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)	
52	27	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)	
53	28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	23 (-)	
54	29	0	0	1	0	1	0	1	5	4	4	3	21 (-)	
55	30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	28 (+)	
56	31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	23 (-)	
57	32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	22 (-)	
58	33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	31 (+)	
59	34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	23 (-)	
60	35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	27 (0)	
1961	36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	29 (+)	
62	37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	30 (+)	
63	38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	24 (0)	
64	39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	34 (+)	
65	40	2	1	1	1	2	3	5	6	7	2	2	32 (+)	
66	41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	5	2	35 (+)	
67	42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	39 (+)	
68	43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	27 (0)	
69	44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	19 (-)	
70	45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	26 (0)	
1971	46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	36 (+)	
72	47	1	0	0	0	1	3	7	5	4	5	3	31 (+)	
73	48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	21 (-)	
74	49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	32 (+)	
75	50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	21 (-)	
76	51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	25 (0)	
77	52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	21 (-)	
78	53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	30 (+)	
79	54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	24 (0)	
80	55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	24 (0)	
1981	56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	29 (+)	
82	57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	25 (0)	
83	58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	23 (-)	
84	59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	27 (0)	
85	60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	27 (0)	
86	61	0	1	0	1	2	2	4	4	3	5	4	29 (+)	
87	62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	23 (-)	
88	63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	31 (+)	
89 H.1	64	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	32 (+)	
90	2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	29 (+)	
1991	3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	29 (+)	
92	4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	31 (+)	
93	5	0	0	1	0	0	1	4	7	6	4	2	28 (+)	
94	6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	36 (+)	
95	7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	23 (-)	
96	8	0	1	0	1	2	0	6	5	6	2	2	26 (0)	
97	9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	28 (+)	
98	10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	16 (-)	
99	11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	22 (-)	
2000	12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	23 (-)	
01	13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	26 (0)	
02	14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	26 (0)	
03	15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	21 (-)	
04	16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	29 (+)	
05	17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	23 (-)	
06	18	0	0	0	0	1	2	2	7	3	4	2	23 (-)	
07	19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	24 (0)	
08	20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	22 (-)	
09	21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	22 (-)	
2010	22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	14 (-)	
11	23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	21 (-)	
12	24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	25 (0)	
13	25	1	1	0	0	0	4	3	6	8	6	2	31 (+)	
14	26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	23 (-)	
15	27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	27 (0)	
16	28	0	0	0	0	0	0	4	7	7	4	3	26 (0)	
17	29	0	0	0	1	0	1	8	6	3	3	3	27 (0)	
18	30	1	1	1	0	0	4	5	9	4	1	3	29 (+)	
19 R.1	31	1	1	0	0	0	1	4	5	6	4	6	29 (+)	
2020	2	0	0	0	0	1	1	0	8	3	6	3	23 (-)	
21	3	0	1	0	1	1	2	3	4	4	4	1	22 (-)	
22	4	0	0	0	2	0	2	2	5	7	5	1	25 (0)	
23	5	0	0	0	1	1	1	3	6	2	2	0	17 (-)	
平年値 1991-2020		0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。
年間の(-)は24個未満、(0)は24個以上28個未満、(+)は28個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52	27	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53	28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	10
54	29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	10
55	30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	16
56	31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	10
57	32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	10
58	33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	15
59	34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	13
60	35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	19
1961	36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	15
62	37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	14
63	38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	12
64	39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	8
65	40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	15
66	41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	19
67	42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	13
68	43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	10
69	44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	8
70	45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	9
1971	46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	13
72	47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	11
73	48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
74	49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	10
75	50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	9
76	51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	13
77	52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	6
78	53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	14
79	54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	7
80	55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	9
1981	56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	1	0	11
82	57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	13
83	58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	7
84	59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	9
85	60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	12
86	61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	12
87	62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	10
88	63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	13
89 H.1	64	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	11
90	2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	14
1991	3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	14
92	4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	14
93	5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	9
94	6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	15
95	7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	5
96	8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	10
97	9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	15
98	10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	8
99	11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	11
2000	12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	15
01	13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	11
02	14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	13
03	15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	12
04	16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	19
05	17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	12
06	18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	10
07	19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	12
08	20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	9
09	21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	8
2010	22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	7
11	23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	9
12	24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	17
13	25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	14
14	26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	12
15	27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	14
16	28	0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	11
17	29	0	0	0	0	0	0	4	2	2	2	0	8
18	30	0	0	0	0	0	2	4	7	2	2	1	16
19 R.1	31	0	0	0	0	0	1	2	3	5	4	1	15
2020	2	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	7
21	3	0	0	0	1	0	2	2	3	1	2	0	12
22	4	0	0	0	1	0	0	3	3	6	0	0	11
23	5	0	0	0	0	1	2	1	3	3	1	0	9
平年値 1991-2020	-	-	-	0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7

台風の接近: 台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-3 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
16 28	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5
18 30	0	0	0	0	0	1	2	5	2	2	0	0	10
19 R.1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0	0	8
2020 2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	5
21 3	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	0	0	6
22 4	0	0	0	0	0	0	2	2	3	0	0	0	7
23 5	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
平年値 1991-2020	-	-	-	0.0	0.2	0.4	1.0	1.6	1.9	0.9	-	-	5.8

台風の北海道・本州・四国・九州への接近: 台風の中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H.1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
16 28	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
18 30	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
19 R.1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
2020 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21 3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
22 4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
23 5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3	-	-	3.0
1991-2020													

台風の上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
 小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-5 令和5年(2023年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置				消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時		
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧		風速		強風半径		月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経
								月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	方位: km							
1	SANVU	4 19 09	3.5	159.6	4 20 21	9.6	156.6	4 21 15	996	4 21 15	23	4 22 03	NE:220 SW:170	4 22 09	10.3	153.8	TD	4 22 15	10.3	153.1
2	MAWAR	5 20 03	6.1	149.6	5 20 21	6.2	149.1	5 27 03	900	5 27 03	60	5 29 03	E:800 W:600	6 3 09	30.6	137.8	L	6 3 21	33.7	144.7
3	GUCHOL	6 6 09	12.8	135.0	6 6 21	13.6	135.1	6 10 21	960	6 10 15	40	6 12 15	SE:560 NW:280	6 12 21	30.5	139.5	L	6 17 03		域外
4	TALIM	7 13 15	15.7	122.3	7 15 15	18.2	117.8	7 17 21	970	7 17 21	30	7 17 15	SE:440 NW:330	7 18 21	22.0	106.3	TD	7 19 03	22.1	105.8
5	DOKSURI	7 20 15	12.6	133.7	7 21 09	13.8	133.0	7 26 03	925	7 26 03	50	7 26 15	E:650 W:560	7 29 09	30.6	115.1	TD	7 30 21	36.7	113.5
6	KHANUN	7 27 03	10.5	138.1	7 28 09	12.8	136.3	8 2 00	930	8 2 00	50	7 31 06	650	8 10 15	36.6	128.1	L	8 12 03	37.6	124.9
7	LAN	8 7 09	22.5	149.0	8 8 09	23.9	149.4	8 12 00	940	8 12 00	45	8 14 15	E:330 W:280	8 17 15	44.8	139.4	L	8 18 21	49.2	154.3
8	DORA	域外			8 12 15	16.3	179.1	8 13 03	980	8 13 03	40	8 15 03	N:170 S:110	8 15 09	20.6	167.9	TD	8 22 15		域外
9	SAOLA	8 22 09	18.8	128.3	8 24 15	20.5	124.8	8 31 15	920	8 31 15	55	9 1 09	NE:280 SW:220	9 3 03	21.6	110.5	TD	9 3 21	20.9	109.3
10	DAMREY	8 24 03	16.9	151.6	8 25 03	18.0	153.8	8 29 03	985	8 29 03	25	8 26 21	E:440 W:330	8 29 15	41.1	156.7	L	8 30 21		域外
11	HAIKUI	8 27 15	18.3	144.3	8 29 03	18.6	139.4	9 3 03	945	9 3 03	45	9 5 03	NE:390 SW:220	9 5 09	23.4	116.8	TD	9 6 09	23.2	115.1
12	KIROGI	8 30 03	11.3	154.7	8 30 21	13.3	154.3	9 1 09	994	9 1 09	23	9 2 09	NE:390 SW:170	9 3 09	29.5	142.0	TD	9 6 21	32.1	134.6
13	YUN-YEUNG	9 4 15	20.0	129.4	9 5 21	22.7	131.9	9 8 09	998	9 8 09	20	9 8 15	NE:330 SW:220	9 8 21	33.6	138.0	TD	9 9 03	34.2	138.2
14	KOINU	9 28 21	15.8	139.0	9 30 03	15.5	132.3	10 5 03	940	10 5 03	45	10 3 21	560	10 9 15	21.4	112.8	TD	10 10 03	20.9	112.4
15	BOLAVEN	10 6 15	9.4	155.3	10 7 21	9.9	153.7	10 12 21	905	10 12 21	60	10 14 15	SE:750 NW:560	10 14 21	40.2	164.6	L	10 16 03		域外
16	SANBA	10 17 15	15.9	110.2	10 18 09	17.1	109.3	10 19 21	1000	10 19 21	20	10 19 09	E:390 W:220	10 20 09	21.4	109.8	TD	10 20 15	20.9	109.7
17	JELAWAT	12 15 21	6.7	138.2	12 17 15	7.5	129.6	12 18 03	1002	12 18 03	18	12 17 15	NW:390 SE:220	12 18 09	7.4	126.3	TD	12 18 15	7.3	123.9

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風半径とは、風速15 m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲の半径。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、東経180°より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 令和5年(2023年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

(1) 台風第2号 (2302 MAWAR)

5月20日03時にカロリン諸島で発生した熱帯低気圧は西へ進み、20日21時に同海域で台風第2号となった。その後勢力を強めながら北西へ進み、25日21時にマリアナ諸島で最大勢力となり、西へ進んだ。その後台風は進路を北へ変え、勢力を弱めながら沖縄の南を進み、進路を北東へ変えた後沖縄本島に接近し、6月3日09時までには日本の南で温帯低気圧に変わり、4日03時に日本の東で消滅した。

(2) 台風第3号 (2303 GUCHOL)

6月6日09時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は北へ進み、6日21時に同海域で台風第3号となり西北西へ進んだ。その後は、進路をゆっくり北東へ変え、10日03時にフィリピンの東で最大勢力に達した後、日本の南を加速しながら北東へ進み、12日21時までには日本の南で温帯低気圧に変わった。その後も、北東から東へ進み続けてアリューシャンの南に達し、17日03時前に東経180度を越えた。

(3) 台風第5号 (2305 DOKSURI)

7月20日15時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は北へ進んだ後西へ進み、21日09時に同海域で台風第5号となった。更に西へ進んだ後、進路を大きく北西に変えて急速に発達し、25日03時に同海域で最大勢力に達し、次第に進路を西へ変えバシー海峡へ進んだ。その後次第に勢力を弱めながら進路を北へ変え、台湾海峡を通過し28日15時までには華南に上陸した。その後急速に勢力を弱めながら北北西へ進み、29日09時に華中で熱帯低気圧に変わり、31日03時に華北で消滅した。

(4) 台風第6号 (2306 KHANUN)

7月27日03時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、28日09時に同海域で台風第6号となり、北西から北へ進んだ。8月1日09時に沖縄の南で最大勢力に達した後、次第に勢力を弱めながら進路を西へ変えて、東シナ海へ進み、その後同海域でほとんど停滞した後、東へ進んだ。その後次第に進路を北へ変え、8日15時には九州の南で再び発達した。10日09時過ぎに朝鮮半島に上陸し、同日15時までには温帯低気圧に変わった。その後進路を西北西に変え、11日には黄海へ進み、12日09時に消滅した。

(5) 台風第7号 (2307 LAN)

8月7日09時に南鳥島の西で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、8日09時に同海域で台風第7号となり西北西へ進んだ。その後小笠原近海で進路を北西に変え、11日03時に同海域で最大勢力に達した。12日09時頃に進路を西北西に変えて、日本の南を進み、その後進路を次第に北北西に変えて、15日05時前に和歌山県潮岬付近に上陸した。その後北西へ進み、15日13時頃に兵庫県明石市付近へ再上陸し次第に勢力を弱め北へ進んだ。その後は、北北東へ進み、日本海で17日15時までには温帯低気圧に変わり、北東へ進んだ後、19日03時に千島近海で消滅した。

(6) 台風第9号 (2309 SAOLA)

8月22日09時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は西へ進み、24日15時に沖縄の南で台風第9号となり南西へ進んだ。その後急速に発達し、26日から29日にかけてフィリピンの東で反時計回りに動き、30日09時にバシー海峡で最大勢力に達した。その後南シナ海を進んで、9月2日15時頃に華南に上陸し、3日03時に熱帯低気圧に変わって、4日03時にトンキン湾で消滅した。

(7) 台風第10号 (2310 DAMREY)

8月24日03時に南鳥島の南で発生した熱帯低気圧は東北東へ進み、25日03時に同海域で台風第10号となった。その後次第に進路を北西に変え、さらに発達して26日15時に南鳥島近海で最大勢力となった。その後勢力を弱めながら日本の東を北西に進んだ後、次第に進路を東へ変え、一時的に再び発達した後、29日15時までに日本のはるか東で温帯低気圧に変わった。その後次第に進路を北東に変えアリューシャンの南へ進み、30日21時前に東経180度を越えた。

(8) 台風第11号 (2311 HAIKUI)

8月27日15時にマリアナ諸島の西で発生した熱帯低気圧は西へ進み、29日03時にフィリピンの東で台風第11号となり北西へ進んだ。その後、発達しながら日本の南を西へ進み、9月3日03時に沖縄の南で最大勢力に達した。その後3日のうちに台湾を通過して勢力を弱め、5日09時に華南に上陸して熱帯低気圧に変わり、6日15時に消滅した。

(9) 台風第12号 (2312 KIROGI)

8月30日03時にトラック諸島付近で発生した熱帯低気圧は北へ進み、同日21時に同海域で台風第12号となり、31日15時には南鳥島の南で最大勢力に達した。その後進路を北西に変え、9月3日09時に小笠原近海で熱帯低気圧に変わり、西北西へ進んだ後、5日21時頃に進路を東北東へ変え、7日03時に四国沖で消滅した。

(10) 台風第13号 (2313 YUN-YEUNG)

9月4日15時に沖縄の南で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、5日21時に日本の南で台風第13号となった。その後同海域を北北東へ進み、6日15時に最大勢力に達した。その後も北北東へ進んだ後、北へ進み、8日09時頃には紀伊半島の南でほとんど停滞した。その後再び北北東へ進み、同日21時に東海道沖で熱帯低気圧に変わり、9日09時に消滅した。

(11) 台風第14号 (2314 KOINU)

9月28日21時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は西へ進み、30日03時に同海域で台風第14号となった。その後進路を大きく北西に変え、10月3日03時に沖縄の南で最大勢力に達し、進路を西へ変えた。その後、5日09時頃に台湾を通過して勢力が弱まったが、南シナ海で再び発達した。その後急速に勢力が弱まり、9日15時に同海域で熱帯低気圧に変わり、10日09時に消滅した。

(12) 台風第15号 (2315 BOLAVEN)

10月6日15時にマーシャル諸島の西で発生した熱帯低気圧はゆっくり北西へ進み、その後進路を西へ変え、7日21時にトラック諸島近海で台風第15号となった。その後勢力を強めながら、次第に進路を西から北北西へ変え、11日21時にマリアナ諸島近海で最大勢力に達した。その後進路を北東に変えて加速し、14日21時までには日本のはるか東で温帯低気圧に変わった。その後も北東へ進んで15日09時にアリューシヤンの南へ達し、東へ進んだ後16日03時前に東経180度を越えた。

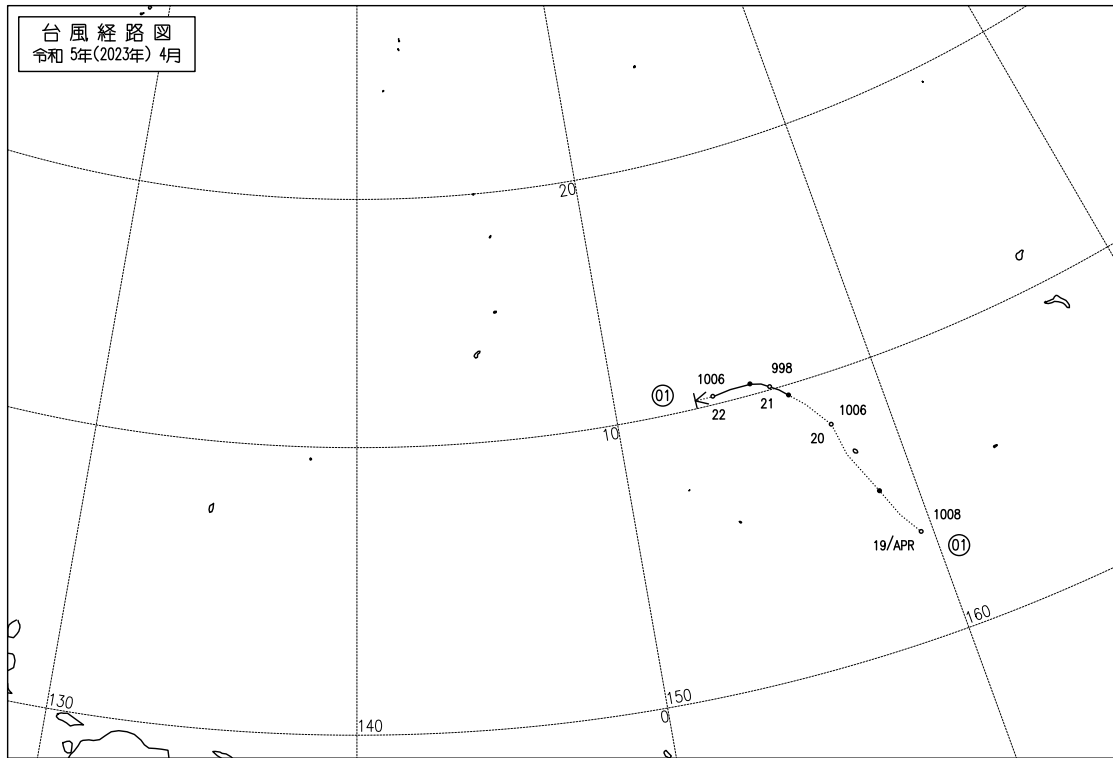
表3 令和5年(2023年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
2	5/30	6/3	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、 四国地方、近畿地方、東海地方、 伊豆諸島、小笠原諸島	5/31	6/2	沖縄・奄美、九州南部	上陸、通過なし。
3	6/11	6/12	沖縄地方、近畿地方、東海地方、 伊豆諸島、小笠原諸島	6/11	6/11	沖縄地方	上陸、通過なし。
5	7/27	7/28	沖縄地方				上陸、通過なし。
6	7/31	8/10	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、 四国地方、中国地方	7/31	8/10	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	上陸、通過なし。
7	8/9	8/17	西日本、東日本、北日本	8/10	8/17	四国地方、中国地方、近畿地方、 東日本、北日本	15日05時前、和歌山県潮岬付近に上陸した。 15日13時頃、兵庫県明石市付近に再上陸した。
9	8/24	8/25	沖縄地方				上陸、通過なし。
10	8/27	8/29	東日本、北日本	8/28	8/28	東北地方	上陸、通過なし。
11	9/1	9/4	沖縄地方	9/2	9/3	沖縄地方	上陸、通過なし。
12	9/2	9/3	伊豆諸島、小笠原諸島	9/2	9/3	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
13	9/5	9/8	沖縄・奄美、九州南部、四国地方、 中国地方、近畿地方、東日本、東北地方	9/6	9/8	沖縄地方、四国地方、近畿地方、 東日本	上陸、通過なし。
14	10/3	10/5	沖縄地方	10/3	10/4	沖縄地方	上陸、通過なし。
15	10/13	10/13	伊豆諸島、小笠原諸島				上陸、通過なし。

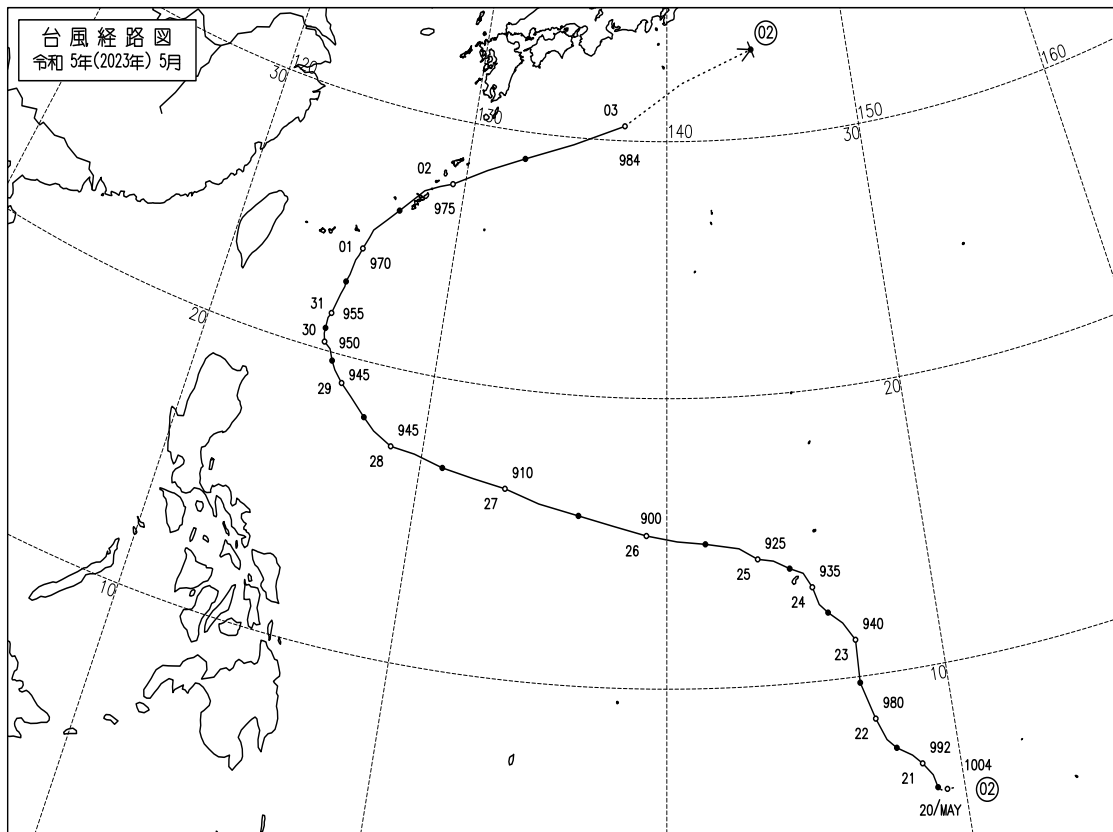
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

資料 2-2-2 令和 5 年 (2023 年) に発生した台風の経路図 (月別)

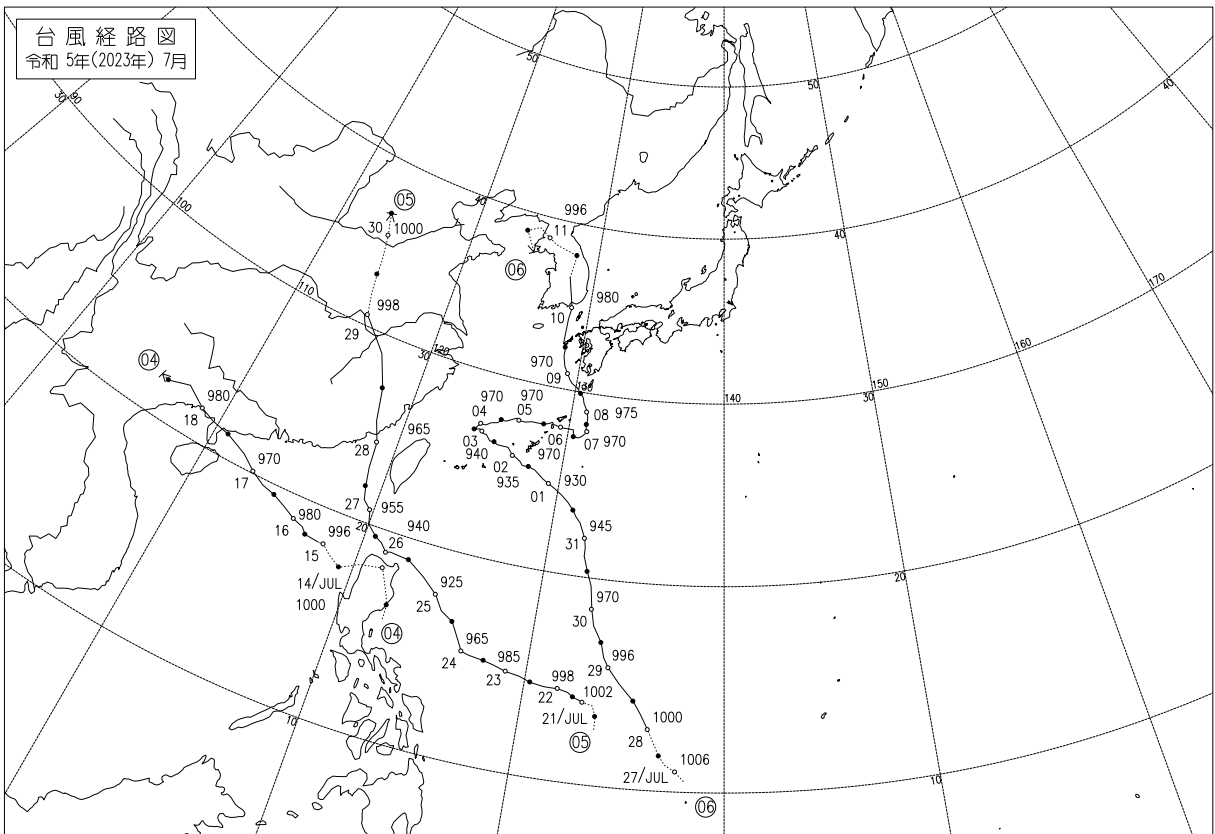
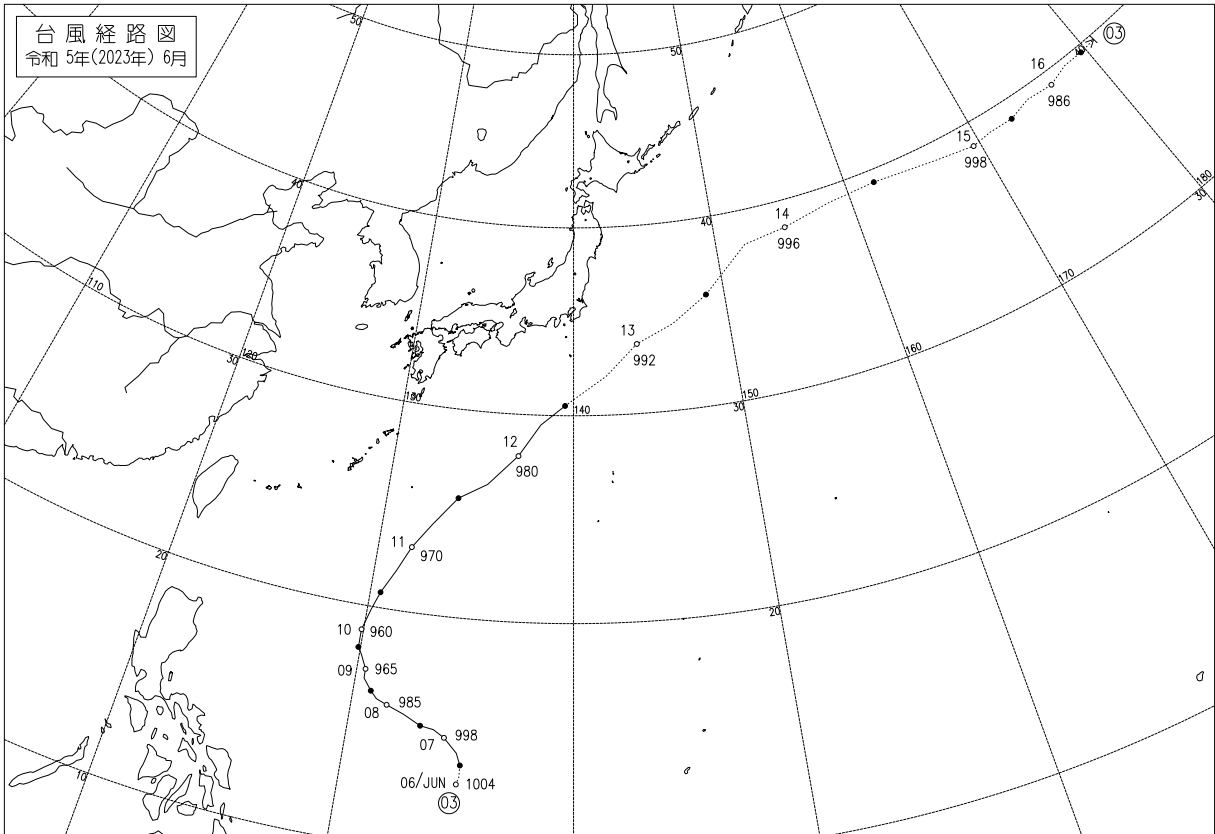
※ 1 月、2 月、3 月及び 11 月は台風の発生がなかったため掲載していない。

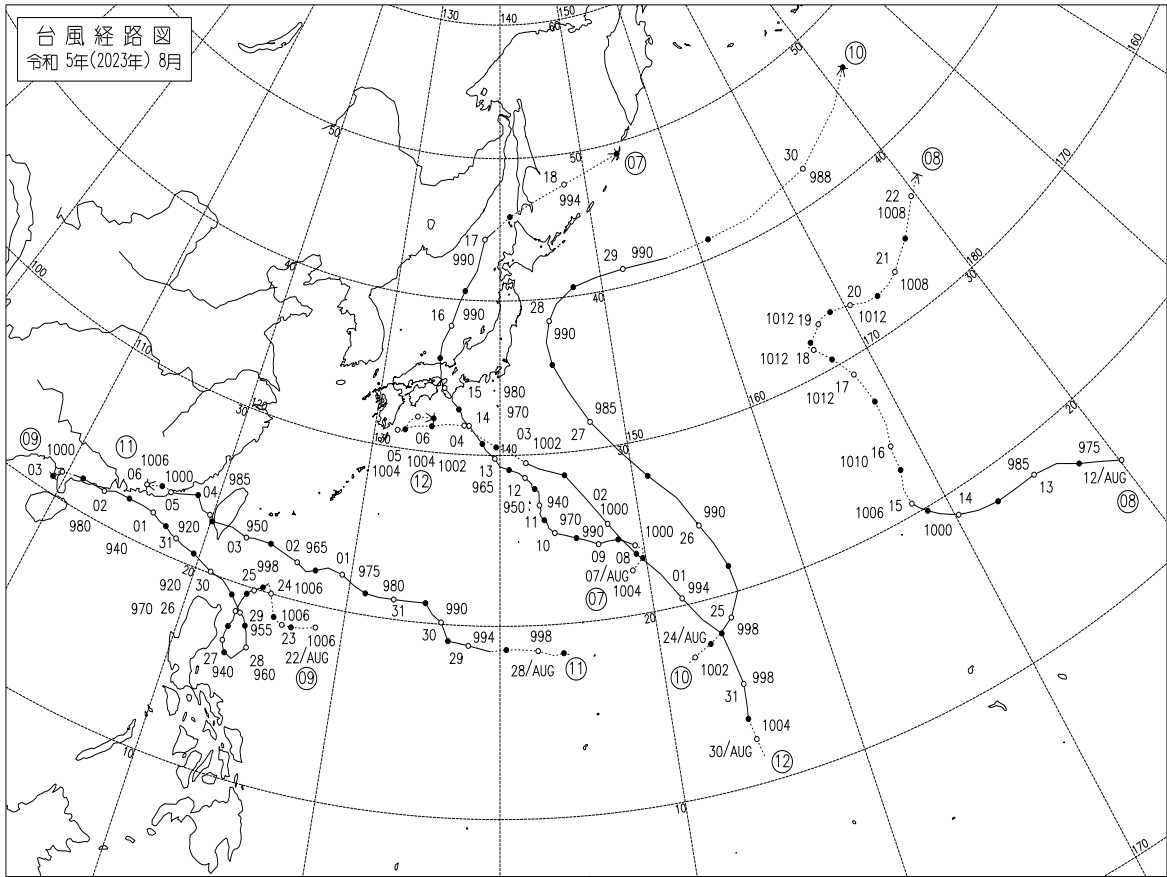


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

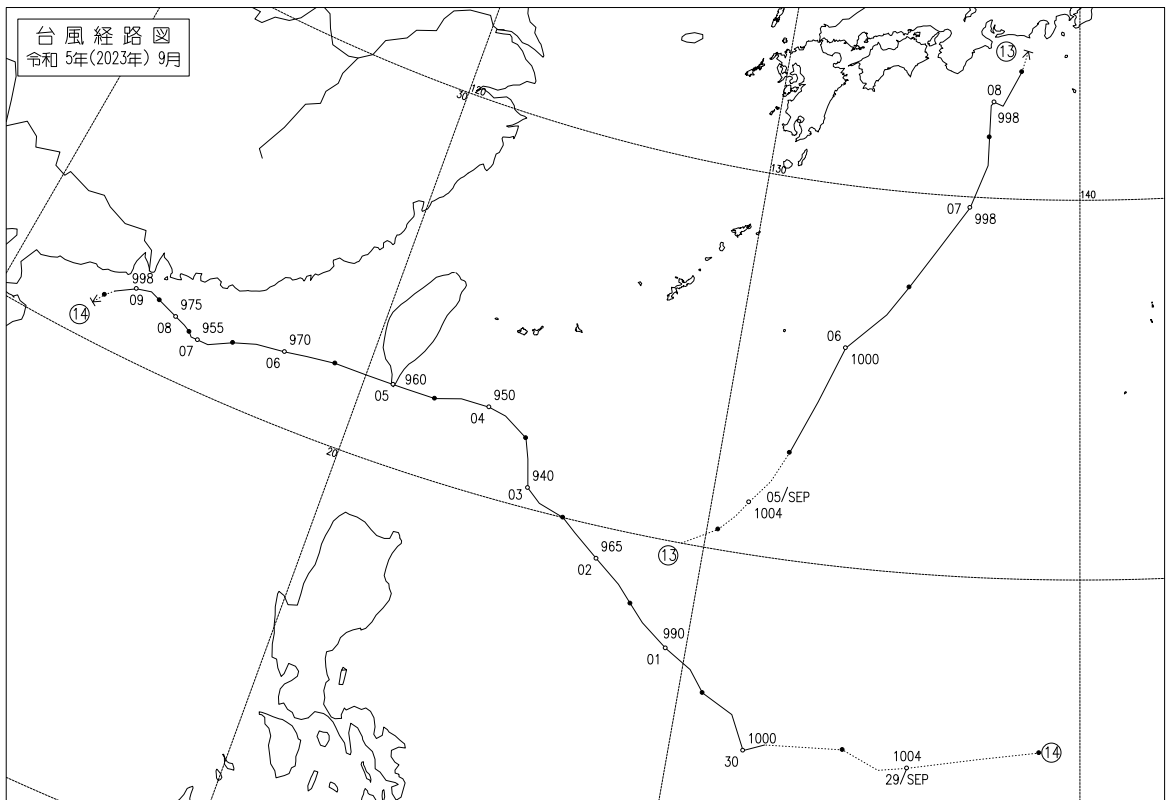


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。





丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温带低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温带低気圧の期間を示す。

